

令和 6 年度
仙台市市民活動サポートセンター
年間報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPO センター

1 はじめに 総括	P 1	7 集計一覧
2 場の提供	P 6	資料 1 サポートセンター年間行事
2-1 貸室	P 7	資料 2 主な項目の利用状況推移
2-2 交流サロン	P 9	資料 3 情報関連業務利用状況推移
2-3 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、 レターケース	P10	資料 4 市民活動共同事務室利用状況
2-4 パソコン、印刷機、コピー機	P12	資料 5 貸室利用状況(部屋別集計)
3 情報の収集・提供	P13	資料 6 貸室利用時間(曜日・時間別集計)
3-1 情報掲示等利用	P13	資料 7-1 利用団体分野別集計
3-2 団体情報の蓄積	P13	資料 7-2 交流サロン種別集計
3-3 市民活動団体への情報提供	P14	資料 7-3 Free Wi-Fi の利用集計
3-4 図書の貸出	P14	資料 8 団体情報ストック数 分野別集計
3-5 情報発信	P15	資料 9 図書資料分類別冊数
4 相談・問い合わせ対応	P16	資料 10 ホームページ アクセス件数集計表
5 交流・連携・その他	P20	資料 11 「ぱれっと」発行状況
5-1 外部組織との連携	P28	資料 12 相談・問合せ対応記録集計表
5-2 会議・研修	P28	12-1 相談サマリー
5-3 視察・見学対応	P29	12-2 相談集計結果【主訴－相談主体】
5-4 防災避難訓練	P32	12-3 相談集計結果【内容－相談者】
5-5 施設維持管理	P33	資料 13 視察・見学等対応
6 事業報告	P34	資料 14 サポートセンター業務運営体制
事業 1 情報収集提供事業	P35	
事業 2 相談事業	P37	
事業 3 人材育成事業	P45	
事業 4 協働に関する 理解促進及び機会創出事業	P49	
事業 5 調査研究事業	P61	
	P69	

1. はじめに 総括

新しい活動が生まれ、様々な担い手が課題解決に参画する社会の実現

○仙台市市民活動サポートセンター運営基本方針

令和 2 年から 5 年間の指定管理期間では「令和 6 年度(2024 年度)には、年間 50 件程度の新しい活動やプロジェクトがサポートセンターの事業を通して生まれ、300 人以上の担い手が参画し、課題を解決する新しい事業や仕組みが地域社会に実装されていく」との目標を掲げた。

すでに令和 5 年度までに、伴走相談などを通して新しい活動やプロジェクトが生まれていたが、そのような事例を市民へ周知し、「何か始めよう・取り組みたい」と思った市民のよりどころとしてサポートセンターが機能するよう各事業を充実させることを運営基本方針とした。

また、社会課題解決に参画する担い手を増やすために、社会課題を市民に開く場や、社会課題の解決に気軽に参画できる場をつくること、および、様々な交流事業、コーディネート機能、地域へのアプローチなども試行した。

○令和 6 年度の成果と課題

(1)施設運営

①成果

年間利用団体数 1,438 団体

新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度に大きく落ち込んだ貸室・交流サロンの利用団体(令和元年度 720 団体、令和2年度 357 団体)も、令和3年度から順調に増加し(令和3年度 404 団体、令和4年度 511 団体、令和5年度 557 団体)、令和6年度は 649 団体が利用。令和元年度の 90%まで利用が戻ってきた。

相談の利用団体数(個人も含む)は、令和5年度に引き続き、貸室・交流サロンの利用団体を大きく上回った。(令和5年度 858 団体、令和6年度 973 団体)。サポートセンターの役割が「場の提供」に限らないことを示している(P6「2. 場の提供 ■利用団体数」参照)。

※重複利用があるため、貸室・交流サロンの利用団体数と相談の利用団体数の計は年間利用団体数を超える。

②課題

ここ5年間の推移をみると、総利用件数、利用者総数ともに、順調に増加しているが、新型コロナウイルス感染拡大前(平成11年度～平成31年度の平均:総利用件数 17,665 件、利用者総数 53,373 人)と比較すると、令和6年度は総利用件数 13,796 件、利用者総数 46,968 人で、8～9割前後にとどまった。貸室・フリースペース・印刷機などの「場の提供」が軒並み平成 11 年度～平成 31 年度の平均を下回っているのに対し、情報揭示受付件数や相談件数などは、平成 11 年度～平成 31 年度の平均を上回った(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」参照)。

ミーティングの持ち方や活動の仕方が多様化し、「場の提供」としてのニーズが頭打ちとなっていることが推測される。相談や情報の受発信への対応を強化し、また施設の利用を待つだけでなく、活動の現場に訪問するなど、多様なニーズに応えることが必要である。

(2)情報収集提供事業

①成果

ブログの年間訪問者数(ユニークユーザー) 78,020 件
記事投稿数 337 件

サポートセンターのブログでは、主催事業の告知や報告、市民活動団体のイベント情報、助成金情報、石川県能登半島大雨災害や岩手県大船渡市山林火災被害の支援情報などを掲載。

訪問者数(ユニークユーザー)78,020 件(前年度比 124%)、閲覧数(ページビュー)は848,741 件(前年度比 107%)で、年間目標として掲げた訪問者数(ユニークユーザー)40,000 件を大きく上回るアクセスがあった(P18「3-5. 情報発信(3)ブログの管理」参照)。

②課題

X(エックス)のフォロワー数は令和5年度末の 1,190 件から、令和6年度末には 1,376 件に増加(P18「3-5. 情報発信(4)X(エックス)の管理」参照)。市民活動団体からのチラシ・ポスター・ニュースレターの受付件数と市民活動イベント掲示板の利用件数を合わせた「情報掲示受付件数」は 4,096 件で、こちらも令和5年度の 4,042 件から増加した。(集計一覧: 資料2「主な項目の利用状況推移」、資料3「情報関連業務利用状況推移」参照)。この状況から、情報の受発信の媒体は、ホームページやブログに限らず、SNS や紙媒体まで多様化していることが考えられる。

多種多様な媒体で、様々な情報があふれている社会において、いかに、社会の課題や市民活動・協働について、広く周知していくかが課題である。

(3)相談事業

①成果

年間相談件数 1,172 件 (前年度比 106%)

うち活動相談 491 件 (前年度比 112%)

サポートセンターの令和 6 年度年間目標

年間相談件数 900 件、うち活動相談 400 件 → 達成

令和6年度の相談件数は 1,172 件(令和5年度1,101 件、前年度比 106%)。年間目標としていた 900 件を大きく上回った。令和6年度の相談の内訳をみると、「活動相談」491 件(令和5年度 438 件、前年度比 112%)、施設の利用問合せなどの「窓口利用相談」370 件(令和5年度 362 件、前年度比 102%)、スタッフから団体へ声がけして話を聞いた情報共有などが含まれる「その他」311 件(令和5年度 301 件、前年度比 103%)で、活動相談が窓口利用相談を上回った(P20～「4. 相談・問い合わせ対応」参照)。

活動相談について、相談者の属性別にみると、市民活動団体が過半数を占めた。市民活動団体からの相談では、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)」に関する相談が最多で 133 件だった(資料 12-2「相談集計結果【主訴—相談主体】」参照)。具体的には、資金調達や助成金申請などの相談が多く、他に法人格を持たない任意団体からは、規約の作成や法人化についての相談、NPO 法人からは、ボランティア募集についての相談などがあった。

②課題

相談者に協働実践者をつなぐ機会が複数あったが、協働実践者とその知見を基に助言する専門相談にまで発展したのは年間 2 件にとどまった。相談者と協働実践者をつなぐには、サポートセンターが双方との信頼関係を構築していることが前提になるが、活動の現場を訪問する機会がまだまだ少なく、関係構築できている協働実践者が限られている。

(4)人材育成事業

①成果

事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例	累計 476 件
サポートセンターの目標 事業参加を通して行動や活動に変化がもたらされた事例 5年間で100件以上	→ 達成
若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら、毎年度2事業以上実施する。	→ 達成
(仙台まちづくり若者ラボ、仙台若者 SDGsアワード、社会福祉士実習の受入、ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度))	

事業参加後・相談後に行動や活動に変化がもたらされた事例を、電話での聞き取りや活動先への訪問、来館時の声がけなどで把握した。その件数は、令和5年度終了時点で334件だったが、令和6年度終了時点で、累計476件に増加した。以下に3つの事例を紹介する。

事例1 サポートセンター主催講座「なぜなに協働」受講団体

令和6年5月の「なぜなに協働」を受講後、伴走相談へとつながった団体。9月に団体の活動現場を訪問し、地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業への申請について改めて検討。仙台市の協働に関する制度を利用しても、自団体の抱える資金面の課題を解決できないと整理。以後、寄付の集め方について相談対応。令和7年2月には、クラウドファンディングの実施に向けて、関係団体への根回しを始めている旨の報告があった。

事例2 事業参加から活動開始

令和6年8月の海岸清掃ボランティア体験会に参加した個人から、地域清掃活動の立ち上げについて相談を受けた。翌月、近況を尋ねた際、「まずは一人でできることからやってみる」と、1日1回のペースでお住まいの地域の清掃活動を始めたとの報告があった。

事例3 市民活動団体と協働実践者の協働をコーディネート

文化芸術分野の市民活動団体から、センサリールーム設置について専門的な知識のあるところと協働したいとの相談を受けた。過去の相談対応から協働実践者(市民活動団体と企業)と相談者をつなぎ、話し合いの場を設け、令和6年12月、センサリールームを設置したコンサートを協働で開催するに至った。

②課題

ボランティア体験会で参加者に、ボランティア情報の集め方などの情報提供を行ったが、ボランティアとしての参加以外の社会課題解決への関わり方(寄付や、自ら活動を立ち上げるなど)の提示が不足していた。

(5) 協働に関する理解促進及び機会創出事業

① 成果

多様な主体が交流できる機会の参加者 のべ 801 人参加

多様な主体が社会課題について意見交換を行う「せんだい・みやぎソーシャルハブ(セッション)」を全 8 回実施し、のべ 207 人が参加した(うち新規参加者は 68 人)。市民活動団体だけでなく、市民や大学関係者、企業、町内会、行政職員、市議会議員などさまざまな立場の人が活発に意見交換を行う場を提供できた。

協働の理解促進や機会創出に資する事業として、「せんだい・みやぎソーシャルハブ」の他に、協働事例を紹介する「協働の現場トーク!」を実施。市民活動団体や企業、市民など 15 人が参加した。

また、サポートセンター全館を使った交流企画「マチノワPOP! UP! キュンです その出会い」では、のべ 579 人が参加。市民活動無関心層の市民から活動運営者層まで、幅広い主体が交流できる機会を作った。

② 課題

仙台のまちには、多様な主体が情報交換し地域の課題解決策を探るセッションのような場や、共創プラットフォームのような取り組みが数多く存在することがわかってきたが、まだ把握しきれていない。それらのすでにある場や取り組みを発掘・把握し、関係性を構築することが課題。

(6) 調査研究事業

① 成果

この指定管理期間での運用体制の確立をめざした社会課題解決プラットフォームについて、実際に運用体制が整い、セッションや情報発信・アーカイブ、ラボなどを実施することができた。地域の課題解決を促進させる「コーディネーター」の役割を担っている市民の発掘と関係性作りに着手した。

② 課題

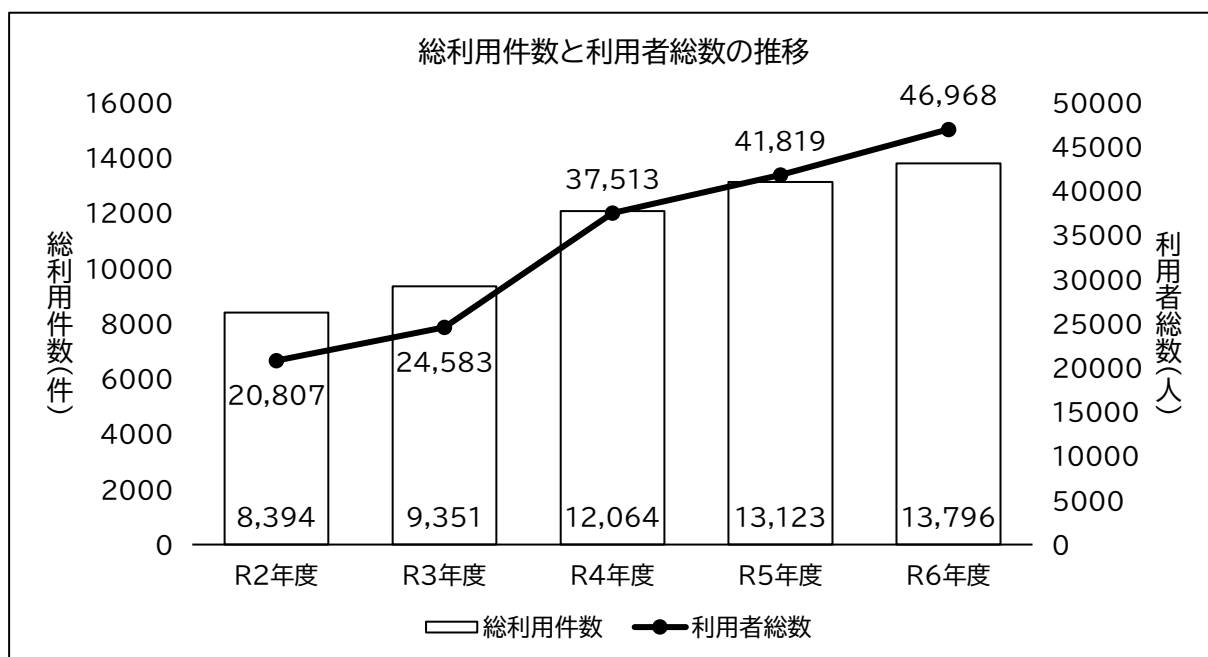
社会課題解決プラットフォームの設置・運用により、多様な主体が集まり地域の課題解決につながる情報交換の場や、コーディネーターにコンタクトすることができたが、まだ関係性構築までには至っていない。

2. 場の提供

令和6年度の総利用件数は13,796件(前年度比673件増)、利用者総数は46,968人(前年度比5,149人増)であった。情報利用者数(参考値)の9,014人を加えた合計利用者数は55,982人(前年度比6,008人増)となり、総利用件数・利用者総数ともに前年度より増加した。(集計一覧:資料2「主な項目の利用状況推移」参照)

総利用件数／利用者総数	総利用件数(件)	利用者総数(人)		
		利用者総数	情報利用者数(参考値)	合計利用者数
R5年度	13,123	41,819	8,155	49,974
R6年度	13,796	46,968	9,014	55,982

情報利用者数・・・1階のマチノワひろば利用者やチラシ、ニュースレターなどの情報を閲覧もしくは収集している利用者の数。
利用票で集計されるイベントなどの利用者やパソコン利用、図書貸し出しの利用者は含めない。



■利用団体数

「貸室」「交流サロン」の利用団体に、「相談」「ロッカー・レターケース・事務用ブース」の利用団体を加えて集計した総計(施設利用団体総数)は1,438団体となった。令和3年度以降、利用団体数は増加傾向にあるが、市内の複数施設が改装工事に入った影響もあると考えられる。

施設利用団体数	施設利用団体数				相談	ロッカー・レターケース・事務用ブース	総計
	セミナー・研修室	市民活動シアター	交流サロン	貸室利用団体数計			
R5年度	336	60	307	557	858	111	1,275
R6年度	388	74	368	649	973	114	1,438

総計(施設利用団体総数)・・・重複利用があるため、内訳の各利用団体数計と利用団体総数は一致しない。

2-1. 貸室

市民活動シアターをのぞく地上階の貸室(セミナーホールおよび研修室1～5)の令和6年度の利用状況は、利用件数2,588件(前年度比222件増)、利用人数は27,805人(前年度比2,248人増)となった。セミナーホールは利用件数、利用人数ともに減少した一方で、その他の部屋では利用件数、利用人数ともに増加した。

市民活動シアターは利用件数、利用人数ともに令和5年度より約1.3倍に増加した。

貸室利用状況	R5年度(開館日数336日)			R6年度(開館日数335日)		
	件数	人数	利用率	件数	人数	利用率
セミナーホール	304	9,581	71%	276	9,418	71%
研修室1	433	2,803	81%	495	2,972	90%
研修室2	548	3,954	91%	587	4,338	92%
研修室3	300	2,124	66%	350	2,783	71%
研修室4	415	2,053	79%	492	2,574	87%
研修室5	366	5,042	79%	388	5,720	81%
地上階貸室計	2,366	25,557	78%	2,588	27,805	82%
市民活動シアター	102	7,001	29%	130	9,266	38%
合計	2,468	32,558	71%	2,718	37,071	76%

貸室の中でも研修室1と研修室2は年間の利用率が9割を超えており、利用の頻度が高く、利用者にとって人気がある部屋といえる。セミナーホールは利用件数と利用人数は減少したが、利用率は前年度と変わっていないため、稼働日数は変わっていないが、1日に複数の団体が利用することが少なくなったといえる。(集計一覧:資料5「貸室利用状況(部屋別集計)」参照)

曜日別では土曜日・日曜日の利用が多く、次いで火曜日・月曜日の利用が多かった。

時間別では例年通り、14時台の利用数が最も多かった。午前、午後、夜間で分けると、それぞれ11時、14時、19時に利用のピークが来ている。(集計一覧:資料6「貸室利用時間(曜日・時間別集計)」参照)

■市民活動シアター

市民活動シアター（以下、シアター）の令和6年度（開館日335日）の利用状況は、利用件数、利用日数、利用時間、利用率、利用人数の全ての項目で令和5年度（開館日336日）を上回った。

利用の傾向は例年と同様に土日の利用率が高い
 ままだが、土曜日は90%（前年度65%）、日曜日は84%（前年度54%）と、土日はほぼ毎回シアターが利用されていたことが分かる。一方で平日は水曜日を除き20%前後の利用率だった。水曜日は休館日もあるため、シアターに限らず、その他の貸室でも利用が少ない。

利用状況	R5年度	R6年度
利用件数	102	129
利用日数	99	126
利用時間	914	1,042
利用率	29%	38%
利用人数	7,001	9,266

1日に複数の利用がある場合があるので、
 利用件数は、利用日数を上回る。

曜日別利用状況	月	火	水	木	金	土	日	年間
利用件数	11	9	2	8	10	46	43	129
R6年度年間利用率	21%	18%	7%	16%	20%	90%	84%	38%
R5年度年間利用率	20%	12%	14%	16%	24%	65%	54%	29%

利用団体数は74団体で、令和5年度と比較して14団体増加。下の表のとおり、多様な団体に利用された。使用内容では、コンサートや発表会が多く、普段の練習の成果を発表する場としてシアターが使われた。

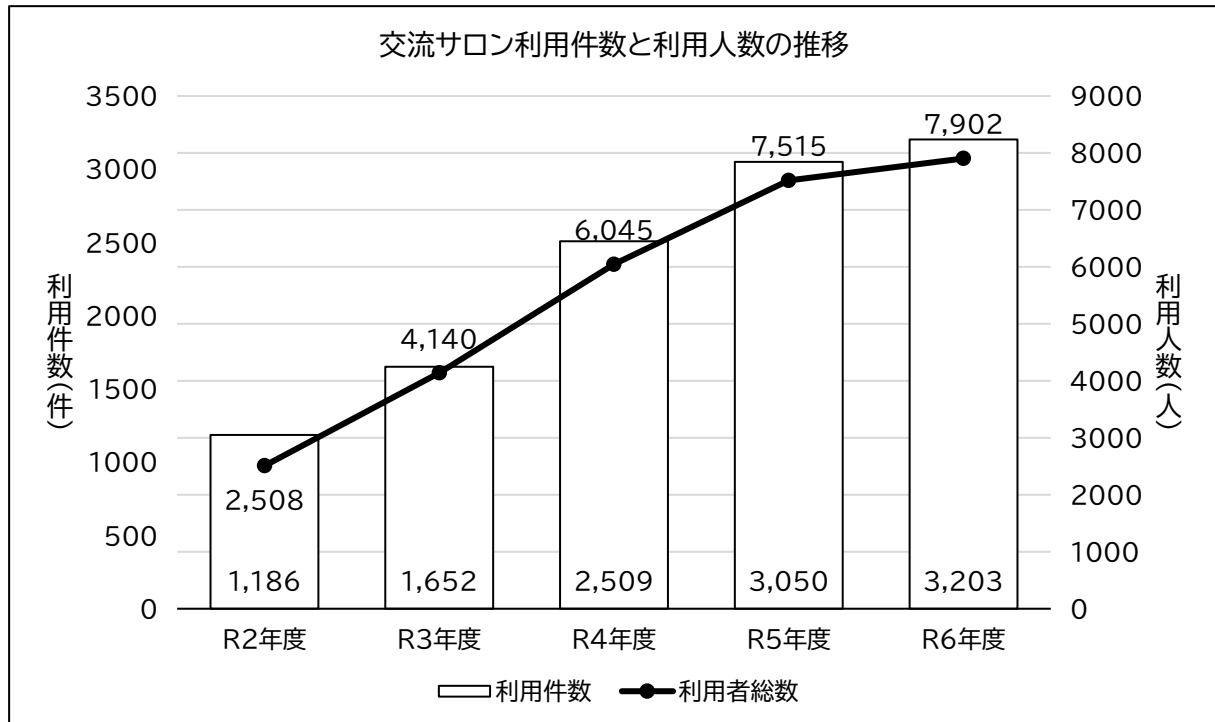
利用団体種別	団体数	
	R5年度	R6年度
NPO	11	17
愛好会・グループ	12	19
市民劇団	3	1
実行委員会	7	11
教室	4	3
企業	5	4
各種団体	14	13
個人	4	6
利用団体合計	60	74

使用内容	開催件数	
	R5年度	R6年度
シンポジウム・講演会	15	15
交流イベント	22	23
演劇	15	9
コンサート	20	38
上映会・展示会等	0	0
発表会	22	33
リハーサル(稽古)	5	8
仕込・撤収	2	10
撮影・録音・配信	4	0

使用目的は複数回答にて集計

2-2. 交流サロン

令和6年度の交流サロン利用は、件数3,203件(前年度比153件増)、利用人数7,902人(前年度比387人増)と令和5年度より増加した。



交流サロンの利用形態では、令和5年度に引き続き件数・人数ともにスタンダードスペースの利用が多かった。スタンダードスペースは、アクティブスペース(4人)よりも多い人数(6人)で利用でき、なおかつカーテンによって独立した空間に近づけることができるため利用者から人気が高い。(集計一覧:資料7「交流サロン種別集計」参照)

2-3. 共同事務室(事務用ブース)、ロッカー、レターケース

■事務用ブース

◆第26期事務用ブース入居団体◆

令和7年3月末時点

- ブースNo. 1 広瀬川1万人プロジェクト実行委員会(承認期間:令和6年9月～令和7年8月)
- ブースNo. 5 NPO法人COLLAWAKE(承認期間:令和6年6月～令和7年5月)

令和4年度までは、年1回の入居者募集(9月入居)に加え、空き状況により追加募集(2月入居)だったが、「入居のタイミングが合わない」「応募できる期間が短く、入居しづらい」との声が寄せられたため、令和5年度に通年で入居者募集を行い、入居のタイミングも6月／10月／2月の年3回入居できるように変更した。更に令和6年10月からは入居のタイミングが撤廃され、入居希望月の3カ月前の末日に申込をするように変更が行われた。

入居団体の増加に伴い、利用人数も増加した。

また入居団体の中には7階のブース入居者専用のスペースに加え、大人数の打合せなどで5階交流サロンも使用する場合があります、館内全体の活用が見られました。

事務用ブース 利用状況	R5年度	R6年度
利用件数	226件	272件
利用人数	335人	399人

■ロッカー、レターケース

ロッカー、レターケースは第26期(承認期間:令和6年9月～令和7年8月)の募集を行った。募集数は、大16台・中28台・小60台。応募数が設置台数を超えなかったため、1団体2台まで利用可(ただし、台数の少ない大の2台使用は不可)として二次募集を行った。

令和6年度のロッカー年間平均利用率は全体では64%(内訳:大97%・中85%・小45%)。ロッカー大については26期の期間では全台が埋まっており、引き続き高い利用率となった。ロッカー中は令和5年度の利用率を下回り、ロッカー小はわずかに増加した。

年間平均利用率 ()内は設置数		R5年度	R6年度
ロッカー	大(16台)	94%	97%
	中(28台)	87%	85%
	小(60台)	43%	45%
	合計(104台)	64%	64%
レターケース(168台)		45%	45%

レターケースの年間平均利用率は45%と前年度と変化はなかった。

郵便の取次件数は108件増加したが、一方でFAXの取次件数は16件減少した。

レターケース 取次件数	R5年度	R6年度
郵便	1,320	1,428
FAX	76	60
合計取次件数	1,396	1,488

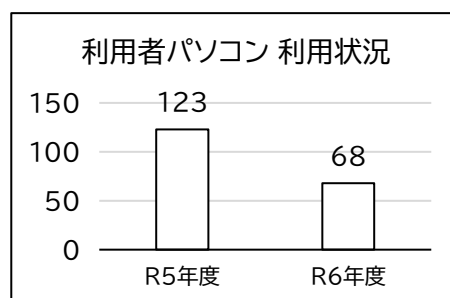
■活動報告書

ロッカー、レターケース利用団体には年2回、事務用ブース利用団体には年4回活動報告書を提出していただいている。提出された活動報告書は、サポートセンター3階の情報サロンで、市民が閲覧できるように公開している。同じく3階で公開されている「団体情報ファイル」が市民活動団体のアーカイブとして、現在の活動状況に関わらず団体情報をストックしている一方で、活動報告書は、現在活動していることが確実な団体の情報を探す際に活用されている。

2-4. パソコン、印刷機、コピー機

■パソコン

令和6年度の利用者パソコンの利用件数は68件(前年度比55件減)だった。パソコンやスマートフォンを一人1台持つ時代において、ニーズ自体が減っていると考えられる。



■印刷機

令和6年度の印刷機利用件数は609件(前年度比42件増)、利用枚数475,689枚(前年度比36,160枚増)となり、利用件数・利用枚数とともに増加した。

印刷機利用状況	R5年度	R6年度
利用件数(件)	567	609
利用枚数(枚)	439,529	475,689

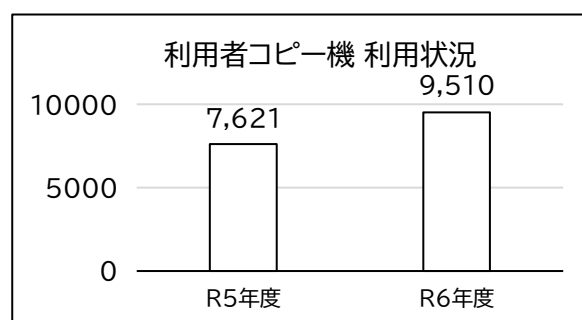
印刷物の内訳では、チラシやその他(会議資料等)は増加した一方で、ニュースレターは減少した。

印刷物内訳	R5年度	R6年度
チラシ	193	202
ニュースレター	174	99
その他	287	314

1度に複数種類を印刷することがあるので、印刷物内訳の計と利用件数は一致しない

■コピー機

令和6年度のコピー機利用枚数は9,510枚(前年度比1,889枚増)であった。コピー機は、コピー機のみで利用されることはまれで、貸室や交流サロン、印刷機と同時に利用されることが多い。交流サロン・印刷機の利用件数増加に伴い、コピー機利用も増加したものとみられる。



3. 情報の収集・提供

3-1. 情報掲示等利用

市民活動団体のチラシ、ポスター、ニュースレターなど情報掲示利用件数は 3,302 件(前年度比 99%)でわずかに減少した。それぞれを令和 5 年度と比べると、チラシは 65 件増加した一方、ポスターは 9 件減少、ニュースレターは 86 件減少した。ニュースレターの減少については、ニュースレターを電子化する団体が増えたことが理由として考えられる。

情報掲示等利用件数	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6 年度
チラシ	注 1,152	1,261	1,703	2,039	2,104
ポスター	124	139	194	234	225
ニュースレター	1,039	1,018	1,016	1,059	973
計	2,315	2,418	2,913	3,332	3,302

注: R2 年度のチラシ合計は、骨プロ、市民活動イベント掲示板の「利用件数」を加算。(資料 3 参照)

「市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト～」は、令和2年10月から、「仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(通称:骨プロ)」をリニューアルしたもの。受け付けた市民活動団体のイベントチラシ画像をサポートセンターのホームページ上に掲示し、希望により各連携施設への配送も行った。掲示板利用件数は794件で、前年度比112%と大きく増加した。

掲示板利用件数	R2年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
年度計	注 163	366	566	710	794

注:令和 2 年度は「市民活動イベント掲示板」の令和 2 年 10 月～令和 3 年 3 月の利用件数

■骨プロ(市民活動イベント掲示板)参加施設 (令和 6 年度末時点 10 施設)

連携団体は、チラシの配架と施設ホームページ内に「市民活動イベント掲示板」のリンクバナーを設置。

せんだいメディアテーク

日立システムズホール仙台

エル・パーク仙台

エル・ソーラ仙台

仙台市ボランティアセンター(福祉プラザの大規模修繕工事に伴い、仮移転先にて配架)

のびすく仙台

のびすく泉中央

のびすく長町南

せんだい環境学習館 たまきさんサロン

仙台市市民活動サポートセンター

3-2. 団体情報の蓄積

団体情報は、サポートセンターに持ち込まれたチラシ、マチノワひろばやギャラリー申し込み時に提出された団体紹介シートを保存し蓄積してきたもの。サポートセンター利用団体を軸にした市民活動団体の活動の軌跡である。繰り返しサポートセンターに持ち込まれる情報のみをファイルするようになり、市民活動団体の活動状況のアーカイブとしての機能を果たしている。

令和 6 年度末時点の団体情報数は、県内外あわせて 5,118 団体。令和 5 年度から 75 団体が新たに情報を持ち込んだ。

(集計一覧:資料8「団体情報ストック数 分野別集計」参照)

3-3. 市民活動団体への情報提供

市民活動団体をはじめ、地域課題に気づき活動を起こそうとしている人など多様な主体の相談に応じることのできる環境を整えるために、市民活動に役立つ情報をテーマごとに編集した「市民活動お役立ち情報」を、サポートセンター内外で提供した。

サポートセンター内では、利用者がいつでも自由に持ち帰ることができるよう館内のチラシラックに配架し、残数が少なくなった頃合いで印刷し補充を行っている。印刷状況からテーマごとの需要を分析すると、「規約の作り方」、「チラシを作るコツ」、「助成金のいろは」の印刷数が多かった。「チラシを作るコツ」は例年印刷数が多いが、「規約の作り方」、「助成金のいろは」の印刷については、相談対応で資料として提供したことが要因と考えられる。

市民活動お役立ち情報 印刷状況（令和 6 年度累計）			
No.	テーマ	R5 年度	R6 年度
1	NPO って何だろう？	130	100
2	規約の作り方	50	150
3	イベント実施のノウハウ	200	100
4	企画書作成のポイント	130	100
5	チラシを作るコツ	220	150
6	助成金のいろは	70	150
7	活動報告書の作り方	70	100
8	情報発信のプラスアルファ	220	120
合計		1,090	970

サポートセンター外での提供としては、サポートセンターのホームページからテーマごとの PDF データをダウンロードできるようにしている。また、YouTubeチャンネル「サポセンちゃんねる」において、動画版の「市民活動お役立ち情報」の提供も行っている。令和 6 年度末時点で提供している動画は下記の3本。

- ・「サポセンって何だろう？～もっと知りたい！仙台市市民活動サポートセンター～」
- ・「NPOって何だろう？」
- ・「はじめての協働」

3-4. 図書の貸出

令和6年度の図書登録者数は23人(前年度比85%)、貸出件数は97件(前年度比103%)、貸出冊数は143冊(前年度比97%)。最も多く借りられた書籍の分野は、市民活動の始め方や団体運営等に関する「NPO 関連全般」(29冊)。次いで「福祉・医療・健康」の分野(26冊)、「まちづくり」分野(18冊)だった。サポートセンター利用団体の活動報告書や出版物を積極的に購入したり、寄贈を受けたりし、図書に加えることで、市民活動団体の情報の受発信の機会にもつなげた。

■図書の展示のテーマ

現在1,000冊以上ある蔵書すべてを展示するスペースはないため、月1回入れ替えながら1階で50冊前後ずつ展示し、閉架分は蔵書リストにて案内している。展示する図書の選定は社会情勢に加え、主催事業や仙台市、市民活動団体との連携企画に関連するものとした。事業参加等で来館した人に役立ててもらおうと共に、書籍をきっかけに事業への関心を促す工夫を行った。

月	展示内容 ()内はマチノワギャラリー、ひろば、事業等の関連事項
4月	R5年度新着図書、NPOについての概要、ボランティア全般、仙台の歴史やまち歩き、活動の始め方、子育て支援(ギャラリー)
5月	環境問題・ごみ問題(ひろば)、社会的包摂・インクルーシブデザイン、社会とのつながり、NPO・市民活動入門
6月	国際協力・ごみ問題・障がい者スポーツ・福祉・防災減災・ローカルメディア・地域の音楽(マチノワPOP!UP! キュンです その出会い 出展団体関連本)
7月	防災減災(ギャラリー)、環境と消費者問題(ひろば)、LGBTQ、NPOと政治
8月	教育支援・生涯学習(ギャラリー・ひろば)、郷土資料(仙台七タ)、戦争に関する書籍
9月	アートとボランティア(ちょっと。ボランティア・いづいっちゃんねる上映会)、国際関係(ギャラリー)、郷土史(ひろば)、防災減災(ギャラリー)
10月	女性・外国人・難病・障害(ギャラリー)、郷土(ひろば)、散歩散策(地域メディア談話室)
11月	HIV/AIDS 関連・マイノリティ人権(ひろば)、国際協力(ギャラリー)
12月	寄付・クラウドファンディング(ひろば)、郷土の文化・歴史(ギャラリー)、子ども支援、まちづくり、情報発信ハウツー
1月	R6年度新着図書、プラスチックごみ・環境問題(ギャラリー・ひろば)、自治、社会的包摂、組織運営、ジェンダー
2月	R6年度新着図書、郷土・街歩き(ギャラリー・ひろば)、NPO 資金・運営
3月	病などの当事者活動(ギャラリー)、若者の主体的な活動(ひろば)、震災アーカイブ・防災、地方と地域コミュニティ

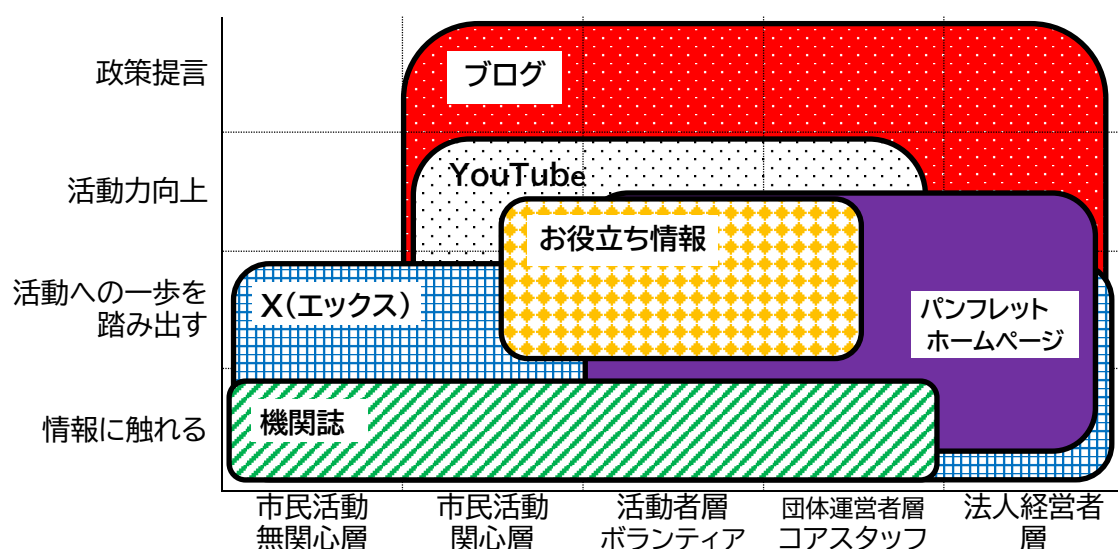
※マチノワギャラリー、マチノワひろばの展示内容については

P41～「6.事業報告 事業1 情報収集提供事業 実施概要 3. 市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般」参照

3-5. 情報発信

より多くの方へサポートセンターの情報や、市民活動・協働によるまちづくりに関する情報を届けるため、対象を市民活動無関心層から法人経営者層までの5段階に分け、それぞれに効果的なツールを用いて発信した。

これまでサポートセンターが培ってきた広報戦略のノウハウは、広報に課題を抱える他機関にも役立てられている。生涯学習支援センターが主催する、市民センター職員等を対象としたスキルアップ研修では、「広報講座」の依頼を受けており、令和6年度で10回目となった。講座に出向くことで、他機関にサポートセンターの機能や連携の窓口をPRすることにもつながっている。



(1) サポートセンター通信『ぱれっと』の発行

多様な主体の協働によるまちづくり事例や、様々な市民活動情報に触れてもらうために、誰もが手に取りやすいフリーペーパースタイルで発行した。市民活動無関心層から団体運営者層までの層を対象としながらも、特に10～40代の無関心層～活動者層をターゲットに制作。好きなことを突き詰めるうちに市民活動につながった人や、気軽に参加できる多種多様な取り組みを取り上げることで市民活動を身近に感じてもらい、読者それぞれの関心から市民活動への一歩を踏み出してもらうことを目指した。仙台に越してきたばかりの人が情報収集に役立てたり、地域の活動に関わる人が、自分の活動に活かしたりしている事例もあった。

令和6年度は、6月、9月、12月、3月の4回、A3両面の見開きページにて、地域の課題解決や魅力向上に協働で取り組む事例を紹介。ねらいやポイントといったトピックごとに、短い文章でまとめることによって、興味をもった箇所から気軽に読んでもらえるよう工夫した。(集計一覧:資料11「サポートセンター通信『ぱれっと』発行状況」参照)

『ぱれっと』コーナー名	概要
ワクワクビト	仙台の街をワクワクさせる人物を「ワクワクビト」として紹介。「人」に焦点をあて、その人自身の活動に対する思いや取り組む社会課題を発信。
ちまたのコラボ(協働)	企業、NPO、行政、商店街、教育機関などがコラボレーションし、地域の課題解決や魅力向上に取り組む事例を紹介。
市民活動 突撃レポート	市民活動団体の活動紹介。
今、私にできること	災害時など有事に立ち上がった取り組みを紹介。
お役立ち本	サポートセンター図書コーナーから活動に役立つ本を紹介。
コトハジメ	「地域のために何かしたい、何か始めたい」という人たちののはじめの一步になる活動を紹介。
活動に+ (プラス)	活動をレベルアップさせるようなお役立ち情報を紹介。
募集して☑	市民活動やボランティア活動を支えるヒト、モノ、コトなど募集中の情報を掲載。
このたびカタチになりまして	記念誌や調査報告、MAP や書籍など活動の成果物を紹介。
私のあしあと	サポートセンターの事業参加者や、サポセンを利用した人のその後について紹介。
気になる〇〇	読者自身が今気になっている社会課題や実践しているちょっと社会にイイコト等を投稿し、他者の一步を後押し。

(2) ホームページの管理

ホームページでは、サポートセンターの機能紹介と事業に関する告知等を行った。

ユニークユーザーは 29,026 件(令和 5 年度 24,641 件、前年度比 118%)。ページビューは 141,578 件(令和 5 年度 110,434 件、前年度比 128%)と前年を上回った。(集計一覧:資料 10「ホームページ アクセス件数集計表」参照)。

よく見られたページは、トップページの次に「イベント・講座の案内」だった。サポートセンター主催事業(イベント・講座)の情報を、ブログや X(エックス)と連携しながら発信したことで、ホームページへのアクセスにつながった。令和 6 年度は、市内の他の公共施設の改修工事に伴い、市民活動団体の貸室利用のニーズが高まった結果、「貸室(地上階)」のアクセス数も増加している。(集計一覧:資料 10「ページランキング」参照)

(3) ブログの管理

サポートセンターの日常的な情報発信ツールとして、主催事業の告知や実施報告のほか、市民活動団体のイベント・ボランティア情報、助成金情報などを掲載した。広報戦略の位置付けとしては、市民活動関心層から法人経営者層までを幅広く対象としており、市民活動への気軽な参加につながる情報から、組織運営や資金調達など活動継続に必要な情報、政策提言やネットワーク構築の事例まで多様な情報を掲載した。

令和 6 年度は、石川県能登半島大雨災害や、岩手県大船渡市山林火災被害など災害が頻発したため、「何かできないか」と考える人向けに募金を中心とした支援情報を多く発信した。また、日ごろの相談対応から得た市民活動団体の最新情報を見逃さず、団体の活動状況に合わせてイベントや団体の書籍出版などの情報を拡散し、活動を支援。ブログカテゴリーの「NPO などからの情報」にあたる記事として 88 件掲載した。掲載団体から「ブログに掲載されたことでイベントの参加者が増えた」「書籍の問合せが増えた」などの声があり、市民活動や社会課題の情報に触れる人の増加につながった。

訪問者数(ユニークユーザー)は 78,020 件、閲覧数(ページビュー)は 848,741 件と、令和 5 年度を上回った。年間の実施目標である記事投稿数 250 件と、訪問者数(ユニークユーザー)40,000 件については、大きく上回る形で達成できた。年間 5 件以上の掲載を目指した、事業者の社会貢献活動事例や協働事例については、企業などが行っている地域の課題解決・魅力向上に向けた取り組み、地域イベントに協賛した事例など 39 件を紹介した(サポートセンター通信『ぱれっと』で紹介した取り組みも含む)。

ブログ投稿記事数およびアクセス数			
R5年度	記事 投稿数	訪問者数 (ユニークユーザー)	閲覧数 (ページビュー)
4 月	30	5,351	72,761
5 月	25	6,177	60,612
6 月	35	6,172	56,715
7 月	29	5,555	69,183
8 月	29	5,694	60,362
9 月	31	6,198	70,419
10 月	29	6,311	67,971
11 月	27	6,382	63,697
12 月	34	5,519	69,104
1 月	20	5,977	72,292
2 月	22	10,404	101,947
3 月	26	8,280	83,678
計	337	78,020	848,741
R5 年度	384	62,784	796,061

(4) X(エックス)の管理

市民活動無関心層から法人経営者層まで全ての層を対象に、ホームページ、ブログの更新状況等、サポートセンターからのお知らせを拡散させるために X を運用した。

フォロワー数は、令和5年度末時点は1,190人だったのに対し、令和6年度末には1,376人に増加。地域や社会の課題に関心がある人や、サポートセンター主催事業参加者などからのフォロワーがあり、リポストで流れてきた情報を見て講座に参加した人もいた。様々なキーワードをきっかけにサポートセンターや多様な市民活動に触れる機会につながっており、市民活動無関心層へ情報を届ける役割を果たしている。

(5) YouTube チャンネル「サポセンちゃんねる」の管理

市民活動関心層から団体運営者層を対象に、市民活動や協働に関する動画や、サポートセンターで実施した事業の動画をアーカイブとして発信することで、市民活動のすそ野を広げ協働の理解促進を図った。また、連動して X やブログでもチャンネルについて発信し、視聴を促した。

チャンネル登録者数は、令和6年度末時点で 50 人(令和 5 年度末時点40人)。新たに動画を2本公開し、動画は計12本となった。今年度配信したのは「いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編」で、「マチノワ POP!UP! キュンです その出会い」開催にあたり、令和 5 年度で終了した「いづいっちゃんねる」を限定復活させた。

<令和6年度公開した動画の視聴回数(令和6年度末時点)>

公開日	動画名	視聴数
令和6年 6月 30 日	いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編 PART1	127 回
令和6年 6月 30 日	いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編 PART2	169 回

「サポセンちゃんねる」の動画は、サポートセンターの他事業にも活用された。9月に社会教育士を目指す学生らの研修を受け入れた際には、サポートセンターや NPO の概要を理解してもらうために「サポセンって何だろう? ~もっと知りたい! 仙台市市民活動サポートセンター~」や、「NPO って何だろう?」を役立てた。

(6) NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用

仙台市からの依頼により、令和4年度から仙台市内 NPO 法人の資金調達の機会を増やすことを目的に、助成金情報や団体運営に役立つ講座などの情報をメールマガジンとして届けた。発行は毎週火曜日で、1回につき 4~6 件(年間のべ 236 件)の情報を掲載し発信。

令和 6 年度末時点の登録者数は 228 件(令和 5 年度登録者数は 165 件)。相談対応の際などに登録を促したことで、登録者数が増えた。

4. 相談・問い合わせ対応

(1) 目的

市民活動支援施設として、①施設の活用を含めた利用相談(施設利用)、②市民活動に関わる情報発信及び収集支援(施設サービス)、③専門性を要する市民活動を行う上での個別の運営等の相談(活動相談)を実施し、個人から団体、行政や企業など幅広い主体者に対し、情報の提供や経営相談など専門的な幅広い支援を行った。

(2) 概要

施設開館時間内に、予約の有無を問わず、市民活動に関わる相談を無料にて実施した。

主に窓口にて行う施設利用判断や市民活動団体の情報提供と、NPO法人の立ち上げや団体運営や資金調達など個別の事案に対して、窓口や電話を問わず相談対応する個別対応がある。

(3) 集計方法に関して

相談事業の集計項目は、相談者主体については、市民(個人)、市民活動団体、町内会、企業(営利組織)、大学(教育機関)、行政、その他に分類。また、対応内容については、自立、連携、創発、情報、その他に分類した。集計結果については次の3種類の方法で行った。

① 相談サマリー

貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】、活動内容や運営相談などを【相談】、これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】、事業参加者の所属を集計する【事業】に分類。事業参加者の意見も合わせて記録することにより、利用者サービスの向上に役立てている。ただし、センター事業に複数回参加した場合はカウントされないため、各事業参加者の総数と相談サマリーにおける【事業】集計は一致しない。

② 相談集計結果【主訴－相談主体】

上述の相談サマリーのうち【相談】について、相談主体の属性と相談主訴を詳細に集計した。自立・連携・創発の理念に基づいた12項目と細かい分類を行うことで、相談主体の状況に合わせた対応記録と、より具体的な相談の傾向を把握し、相談ニーズの分析を目指した。

横軸の【伴走】については、サポートセンター事業「伴走型相談による個別相談」該当候補の相談に関して、新規相談もしくは継続対応について集計した。

③ 相談集計結果【内容－相談者】(複数選択あり)

例えば、NPO法人と協働する団体が同席した対応や、団体の立ち上げ相談の内容から助成金の相談に移行した場合など、複数の属性や内容を集計していなかった経緯がある。そこで、対応した全ての内容・相談者を記録し、かつ複数選択を含めることで、柔軟に対応する集計を行った。

(4) 成果

① 相談件数

相談件数は

- ・貸室利用やチラシ配架など、施設利用の問合せを【窓口】(窓口利用相談)
- ・活動内容や運営相談などを【相談】(活動相談)
- ・これらに当てはまらない対応を行った場合に【その他】

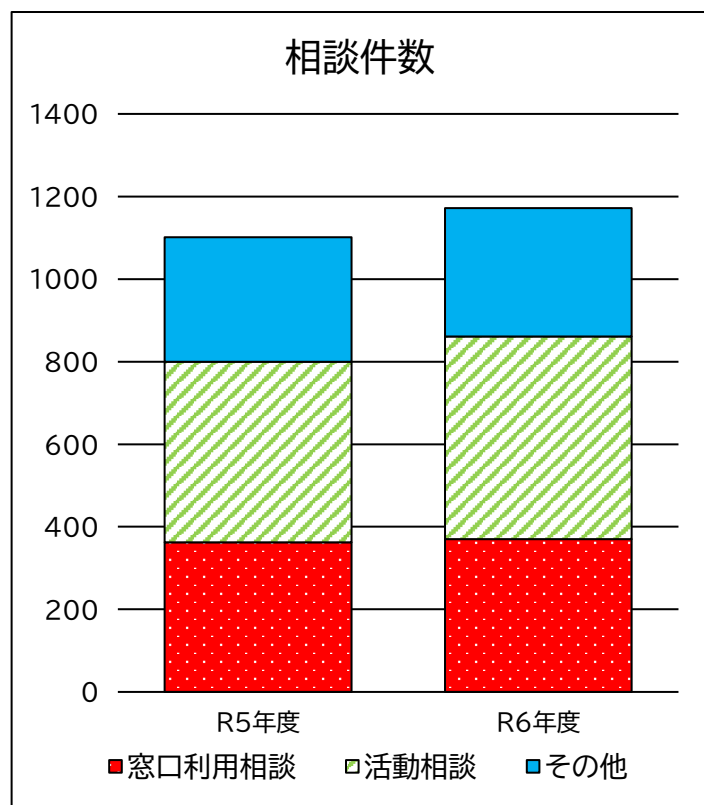
と分類し、集計。

令和6年度の相談件数は 1,172 件と、令和5年度の 1,101 件から71件増加。3年間連続で 1,000件を超えた。内訳は、「窓口(窓口利用相談)」370件、「相談(活動相談)」491件、「その他」311件であった。

令和6年度は、令和4年度、令和5年度に引き続き、「相談(活動相談)」の件数が「窓口(窓口利用相談)」の件数を上回った。令和6年度は「相談(活動相談)」が「窓口(窓口利用相談)」を121件上回り、令和5年度よりその差が大きくなった。(集計一覧:資料12-1参照)

令和6年度の「相談(活動相談)」は、令和5年度より53件増加。「窓口(窓口利用相談)」は、令和5年度よりわずかに増え、「その他」も令和5年度よりも10件増えたため、相談種別の全てが前年度件数を上回る結果となった。

相談種別	R5 年度		R6 年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
窓口	362件	33%	370件	32%	102%
相談	438件	40%	491件	42%	112%
その他	301件	27%	311件	26%	103%
相談全体	1,101 件		1,172 件		106%

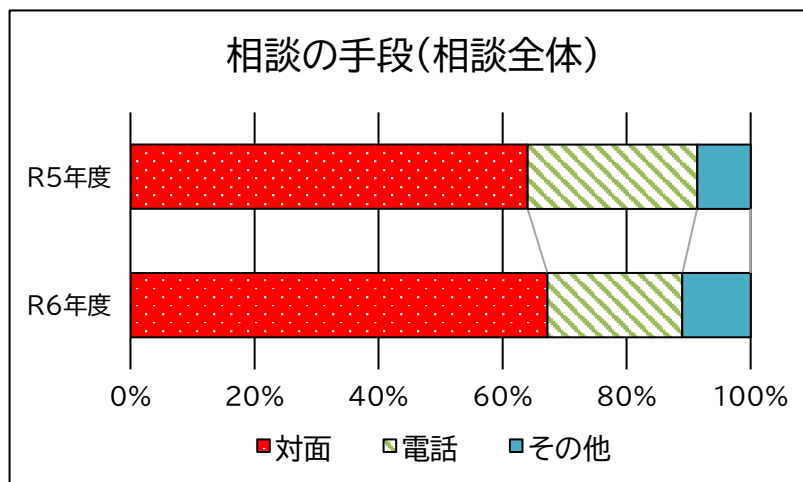


② 相談の手段

「対面」での相談が788件(令和5年度705件)と、83件増加した。一方、「電話」は255件(令和5年度301件)と46件減少。お問い合わせフォームやオンライン、メールでの相談などの「その他」は129件(令和5年度95件)と、34件の増加となった。

「電話」が減少し、「その他」が増加したのは、お問い合わせ手段が、電話からお問い合わせフォームやメールへの変化したことが理由と考えられる。

相談手段	R5年度		R6年度	
	件数	構成比	件数	構成比
対面	705件	64%	788件	67%
電話	301件	27%	255件	22%
その他	95件	9%	129件	11%
全体	1101件		1172件	

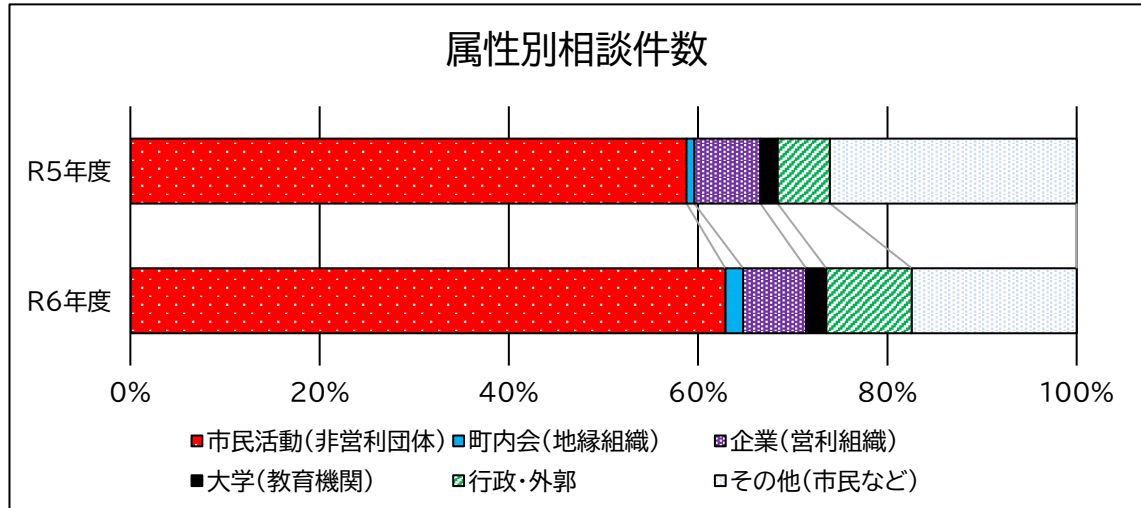


③ 相談全体における相談者の属性

「市民活動(非営利団体)」が737件(前年度比114%)と相談の全体の6割を超えた。「町内会(地縁組織)」は22件(前年度比244%)と約2.5倍。「企業(営利組織)」は78件(前年度比101%)と横ばい、「大学(教育機関)」が25件(前年度比125%)とわずかに増加した。「行政・外郭」は106件(前年度比174%)と令和5年度より大きく増加した一方で、「その他(市民など)」は204件(前年度比71%)と令和5年度から大きく減少する結果となった。

(集計一覧:資料 12-1「相談サマリー」参照)

属性別相談件数	R5年度		R6年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	647件	59%	737件	63%	114%
町内会(地縁組織)	9件	1%	22件	2%	244%
企業(営利組織)	77件	7%	78件	7%	101%
大学(教育機関)	20件	2%	25件	2%	125%
行政・外郭	61件	5%	106件	9%	174%
その他(市民など)	287件	26%	204件	17%	71%
全体	1101件		1172件		106%



④ 活動相談における属性別相談件数

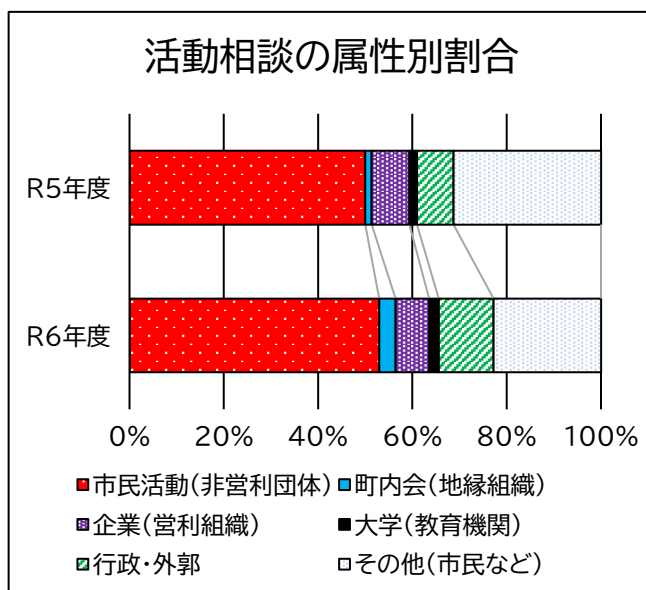
令和6年度の「活動相談」の相談件数は、令和5年度と比べて53件増加。属性別で最多の「市民活動(非営利団体)」も前年度から41件増加。令和5年度より減少したのは「その他(市民など)」のみだった(集計一覧:資料 12-1「相談サマリー」参照)。

「活動相談」を属性別に見ると、前年度比が最大となったのは「町内会(地縁組織)」で 283%。「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談やその前後に申請準備の相談に応じたことに加え、泉区まちづくり推進課主催「泉区町内会長研修会」に出向き相談対応したことで相談件数が増えた。

「行政・外郭」も前年度比 168%に増加。「仙台まちづくり若者ラボ 2024(以下、若者ラボ)」に参加したチームからの相談を「行政・外郭」に分類したため件数が増加。

「企業(営利組織)」は、令和5年度と同数となり、「仙台市市民協働事業提案制度」「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談や、社会貢献事業を実施したい企業からの相談に応じた他、令和5年度に引き続き企業ヒアリングも実施した。

活動相談における 属性別相談件数	R5年度		R6年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
市民活動(非営利団体)	219件	50%	260件	53%	119%
町内会(地縁組織)	6件	1%	17件	3%	283%
企業(営利組織)	35件	8%	35件	7%	100%
大学(教育機関)	7件	2%	10件	2%	143%
行政・外郭	34件	8%	57件	12%	168%
その他(市民など)	137件	31%	112件	23%	82%
全体	438件		491件		112%



⑤ 相談主訴

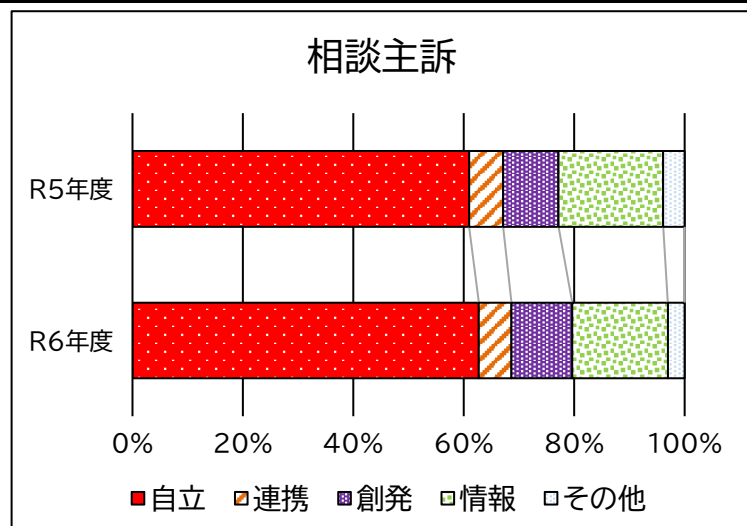
「活動相談」では、相談の主訴を「協働によるまちづくりの推進のための基本方針」(平成28年策定)であげられている「自立」「連携」「創発」の3つに「情報」「その他」を加えた5つに分類・集計した。

「自立」は活動の立ち上げに向けた想いの整理や、組織の運営についての相談。「連携」は多様な主体との協働についての相談。「創発」は政策の提言や制度の利用についての相談。「情報」は制度や活動などの情報収集。「その他」は何かしらの課題を抱えた当事者からの相談やサポートセンターへの視察、またここまであげたものに当てはまらないものを分類した。

「自立」段階の活動相談は308件と、令和5年度の267件と比較して115%に増加した。サポートセンターに寄せられた「活動相談」の63%が「自立」段階の相談だった。この「自立」の段階は更に3つに分類され、「課題解決に取り組もうとする段階」の相談が令和5年度と同じ71件。「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)に関する相談」は171件と令和5年度の144件から大幅に増加。令和4年度は97件だったことから、2年連続で大きく増えていることがわかる(資料一覧:資料12-2参照)。

「連携」の段階の相談は、令和5年度からわずかに増加。「連携」を更に3つの分類に分けて見てみると、「市民活動団体間のネットワークの相談」が、17件と令和5年度の10件から増加。市民活動団体からは、他団体と連携したいという相談、外郭団体からはサポートセンターとの連携についての相談があった他、大学からは留学生にボランティア先をコーディネートして欲しいとの依頼があり対応するなどした。一方で、「多様な主体による協働の相談」は7件と、令和5年度の16件から減少した。

主訴	R5年度		R6年度		前年度比
	件数	構成比	件数	構成比	
自立	267件	61%	308件	63%	115%
連携	27件	6%	29件	6%	107%
創発	44件	10%	54件	11%	123%
情報	83件	19%	85件	17%	102%
その他	17件	4%	15件	3%	88%
全体	438件		491件		112%



⑥ 相談主体別相談主訴

相談主体別に相談主訴を見ると、全ての相談主体で、「自立」の段階の相談が最も多かった。

「市民活動団体(非営利団体)」では、「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)」に関する相談が133件あった(資料一覧:資料12-2「相談集計結果【主訴—相談主体】」参照)。うち任意団体が98件あり、資金調達や助成金申請の相談が多く、規約作成、法人化に向けた定款作成、雇用に関わる相談などがあつた。

NPO 法人から「組織運営基盤(事務局運営・税務・労務・会計・資金・人材・労務等)」に関する相談のは、助成金やボランティア募集相談、クラウドファンディングについて継続相談等。

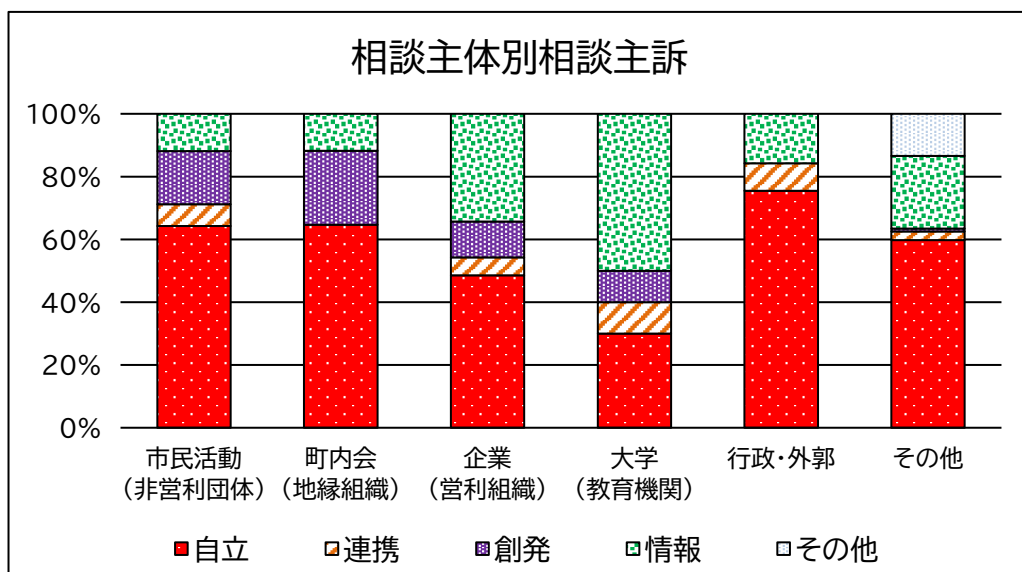
「行政・外郭」では、「自立」の相談が43件あつた。中でも、「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」は29件あり、若者ラボでの相談が半数以上を占めた。若者ラボのメンターミーティングにサポートセンタースタッフが参加して相談に応じた他、若者ラボ参加チームの活動現場に足を運んで、活動していく中で出てきた困りごとに都度助言を行った。

「企業(営利組織)」からの相談では、個人事業主や社会起業家の相談に継続対応した他、企業ヒアリングとして、こちらから出向き企業の社会貢献事業等について情報収集を行った。

「その他・市民」では、まだ組織化していない個人から、活動の立ち上げや活動に参加したいという相談があつた他、活動を始めた個人からの活動相談にも対応した。

継続対応中の相談は全体で46件。助成金申請などの資金調達、法人設立、チームビルディング、会計相談などで継続的に対応した。

属性別 主訴	市民 活動	町内会	企業	大学	行政・ 外郭	その他	合計
自立	167件	11件	17件	3件	43件	67件	308件
連携	18件	0件	2件	1件	5件	3件	29件
創発	44件	4件	4件	1件	0件	1件	54件
情報	31件	2件	12件	5件	9件	26件	85件
その他	0件	0件	0件	0件	0件	15件	15件
合計	260件	17件	35件	10件	57件	112件	491件



⑦ 相談主体別—相談内容(複数選択あり)

ここで件数としてあげているのは、1件の相談の中に含まれる主たる相談種別の他に副訴として選択できたものを複数あげている為、件数の増減は相談の傾向として分析した。

活動相談の内容・相談者について複数選択による集計結果を見ると「自立」の段階の相談が484件で最多であった。「連携」は121件、「創発」は67件、「情報」は244件、「その他」は31件となった(資料一覧:資料 12-3「相談集計結果【内容—相談者】参照)。

「情報」は244件あり、相談主体別—相談主訴(資料一覧:資料 12-2「相談集計結果【主訴—相談主体】」参照)と159件差がある。次いで件数の差が大きかったのが「課題発見・企画立案・事業遂行に関する相談」の87件差であることから、「情報」以外が相談の主訴である場合、併せて何かしらの情報収集・提供を行うケースが最も多いことがわかる。

⑧ その他

仙台市市民協働推進課の「市民協働事業提案制度」と「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」の事前相談に対応した。

○「市民協働事業提案制度」事前相談

令和7年度実施事業の事前相談

令和6年6月～7月 16 件(オンライン相談0件)

○「地域づくりパートナープロジェクト推進助成」事前相談

令和7年度実施事業の事前相談

令和6年 10 月～12 月 21 件(オンライン相談5件)

平成28年度から、せんだい創業支援ネットワークの構成団体として、公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市企業支援センター「アシスタ」と連携し、「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参画している。令和6年度は年間を通し、5件の相談対応をした。

5. 交流・連携・その他

5-1. 外部組織との連携

他組織とサポートセンターの連携を深め、効果的な管理・運営を行うため、下記の定例会や評議会などへ参加や、公的な業務へ協力を行った。

連携先	日程	内容
会議・事業連携等		
みやぎ NPO プラザ	令和6年4月4日(木)	新年度事業の情報交換
	令和6年7月20日(土)	県内市民活動支援施設ヒアリング対応
	令和6年10月10日(木)	県内 NPO 支援施設オンライン情報交換会
仙台市生涯学習支援センター	令和6年4月18日(木)	情報交換
仙台市財政局	令和6年7月17日(水)	新本庁舎低層部等の官民連携に関するヒアリング対応
仙台市	令和6年9月4日(水)	職場見学会 受け入れ協力
仙台市文化振興課	令和7年3月7日(金)	打ち合わせ(市民活動掲示板関連)
杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)	令和6年6月3日(月)	ユースカレッジ部会出席
	令和7年3月17日(月)	定例会議出席
仙台市社会福祉協議会	令和6年6月25日(火)	評議員会出席
	令和6年6月27日(木)	ボランティア・市民活動ネットワーク会議参加
仙台市環境局	令和6年7月31日(水)	フードドライブ情報交換会参加
	令和6年10月19日(土)	中国建設銀行清掃活動協力
仙台市企業支援センターアシスタ	令和6年10月22日(火)	仙台創業支援ネットワーク会議出席
その他		
仙台市市民局	令和6年5月30日(木)	市民局出前講座
西多賀地区社会福祉協議会	令和7年3月15日(土)	福祉委員交流会参加

5-2. 会議・研修

(1) 会議

サポートセンターの管理・運営を円滑に、かつ効果的に行うため、下記のような各種会議(打ち合わせ)を開催した。

○仙台市と指定管理者との定例打ち合わせ

開催頻度: 1 回/月

所要時間: 約 2 時間/回

内容: 管理運営状況の報告・連絡・相談や懸案事項の協議

○施設運営会議

開催頻度: 2 回/月

所要時間: 約 2 時間/回

構成メンバー: センター長、副センター長、および各主任

内容: 各事業の進捗管理とサポートセンター運営に関する課題や懸案事項に関する協議

○ケースミーティング・全体ミーティング

開催頻度: 2 回/月(休館日活用)

所要時間: 1 時間/回

内容: 相談業務および施設運営管理についての共有や研修

○チームミーティング、部門会議、各事業ミーティング

随時開催

(2)研修

外部研修では、日本 NPO センターが行う「ともしび NPO スクール」に参加し NPO で働く上での知識を深めた。また、みやぎ NPO プラザ主催の講座に対しても積極的に参加した。内部研修としては受付業務の使用変更や還付などの内容をロールプレイ形式で学んだ。

■外部研修

外部研修	日程	人数
みやぎ NPO プラザ 「NPO・市民活動団体のための会計初級講座」	令和6年5月16日(木)	1名
みやぎ NPO プラザ「基礎から学べる！NPO 法人設立講座」	令和6年5月25日(土)	2名
みやぎ NPO プラザ「行政職員のための NPO 理解講座」	令和6年5月28日(火)	2名
中間支援機能に関する研究会 「これからの中間支援を考えるシンポジウム」	令和6年7月9日(火)	1名
日本 NPO センター「ともしび NPO スクール」開講式	令和6年7月20日(土)	1名
日本 NPO センター 「ともしび NPO スクール支え合いを創り出す」	令和6年7月23日(火)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO のための仕訳集中講座」	令和6年7月26日(金)	1名
日本 NPO センター「ともしび NPO スクール」特別講義	令和6年7月29日(月)	1名
仙台市都市整備局 公共マネジメント推進課 「公共施設の自主点検研修会」	令和6年8月8日(木)	2名
公益財団法人宮城県文化振興財団「社会包括研修」	令和6年8月8日(木)	1名
日本 NPO センター 「現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修 2024」	令和6年8月9日(金)	1名
みやぎ NPO プラザ 「あなたの団体は大丈夫？ハラスメント対策講座」	令和6年8月9日(金)	1名
日本 NPO センター 「ともしび NPO スクール 寄り添い、向き合う」	令和6年8月20日(火)	1名
みやぎ NPO プラザ 「NPO 法人のための会計監査 & 財務諸表の読み方講座」	令和6年8月24日(土)	1名
日本 NPO センター 「ともしび NPO スクール仲間とともに活動続けるコツ」	令和6年8月27日(火)	1名
復興庁被災者支援コーディネート事業 「みやぎ地域コーディネーター研修会」	令和6年9月5日(木)	1名

外部研修	日程	人数
みやぎ NPO プラザ 「宮城県の助成プログラム×NPO～助成申請編」	令和6年9月6日(金)	1 名
日本 NPO センター 「現場の声から学ぶ！組織診断サポート研修 2024」	令和6年9月20日(金)	1 名
仙台市令和 6 年度情報セキュリティ一般職員研修	令和6年9月26日(木)	1 名
日本 NPO センター「ともしび NPO スクール 企業セクターからみた NPO」	令和6年10月8日(火)	1 名
仙台市社会福祉協議会「地域福祉セミナー」	令和6年10月10日(木)	1 名
大阪ボランティア協会「NPO 法人の「解散」講座」	令和6年 10月10日(木)	1名
みやぎ NPO プラザ「NPO のための税金基礎講座」	令和6年11月7日(木)	1 名
みちのく復興・地域デザインセンター「住民主体による地域づくりへの支援コーディネート力を高める研修会」	令和6年 11月11日(月)	1 名
市民協働推進課「『俯瞰』から学ぶクリエイティブ思考講座」	令和6年12月2日(月)	1 名
みやぎ NPO プラザ 「NPO 支援施設における伴走支援のあり方を考える」	令和6年12月5日(木)	1 名
地域政策課「令和 6 年度地域づくり担当職員研修」	令和6年12月6日(金)、	1 名
東京ボランティア・市民活動センター 「災害時を見据えた関係団体とのつながり方研修」	令和7年1月30日(木)	1 名
みやぎ NPO プラザ 「NPO 支援施設フォローアップ事業人材育成研修」	令和7年1月30日(木) 令和7年1月31日(金)	1名
みやぎ NPO プラザ 令和 6 年度みやぎ NPO フォーラム 「NPO の世代交代と事業継承を考える part2」	令和7年2月9日(金)	1 名
みやぎ NPO プラザ「認定 NPO 法人申請・更新講座」	令和7年2月13日(木)	1 名
民間 NPO 支援センター将来を展望する会(CEO 会議) NPO と行政の協働タスクチーム 「NPO と行政の「協働」を再考するオープンラボ」	令和7年2月28日(金)	2名

■内部研修

内部研修	日程	人数
取りやめ・還付 ロールプレイ	令和6年4月24日(水)	全職員対象
使用変更手続き ロールプレイ	令和6年5月8日(水)	全職員対象
ロッカー申し込み受付研修	令和 6 年6月26日(水)	全職員対象
NPO 法人設立(伝達研修)	令和6年7月24日(水)	全職員対象
資金調達講座(スタッフ向けに実施)	令和6年 8 月 14 日(水)	全職員対象
NPO の会計(伝達研修)	令和6年11月 13日(水)	全職員対象

5-3. 視察・見学対応

令和6年度の視察・見学による来訪者の件数は73件(前年度比17件増)。来訪者数は182人だった。(集計一覧:資料 13「視察・見学対応」参照)

来訪者の属性は、その他(学生・議員・公益法人)が59件で最多で、その中でも建築に興味があって来館された方が多かった。

来訪者属性(件数)	R5 年度	R6年度
市民活動団体	2	4
行政関係者	3	1
企業関係者	4	5
その他(学生・議員・公益法人)	46	59
マスコミ取材	1	4
合計	56	73

5-4. 防災避難訓練

消防法に基づく防災避難訓練を実施した。

日程	実施時間	参加	訓練種別
令和6年10月9日(水)	15:00~16:30	13人	消火訓練/通報訓練
令和7年3月12日(水)		14人	避難訓練 設備操作訓練

訓練の目的

〔不特定多数が利用する施設としての火災・地震発災時の避難誘導の手順を共有する〕

- 施設利用者へのパニック防止を目的とした情報提供の実施確認(館内放送)
- 館内災害対応設備及び感染予防備品の確認(施設設備・災害対応備品)

訓練の内容

- 防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認
- 想定災害による避難誘導訓練(消防訓練カード使用)
- 通報訓練(内線にて防火管理者が通報を受け取る)

消防計画に定めた年 2 回の消防訓練は、令和6年10月9日(水)及び令和7年3月12日(水)に「防災設備・備品の種類、設置場所、使用方法の確認」「避難誘導訓練」を主な内容として行った。

令和6年10月9日(水)には AED 講習を行った。参加者は同日の消防訓練と同じ13名で外部から講師を呼び、AED についての操作方法と手順及び心肺蘇生法の講習を受けた。

「避難誘導訓練」は両日とも火災を想定しての訓練とした。

令和6年度に引き続き「消防訓練カード」を使用しての避難誘導訓練を実施した。火災が発生した想定でスタッフが避難誘導行動を行い、館内各所に設置してあるカードに書かれた状況(例:セミナーホールの出入り口に人が殺到している。けが人はいない)について対応を考え行動し、終了後にそれぞれとった対応について発表、意見交換・行動の共有を行った。

いずれの回においても、中央監視システムの見方、館内放送、消火栓および消火器の設置状況及び操作方法などについて改めて確認をしている。訓練後の意見交換ではそれぞれの対応や行動の良かった点・改善が必要な点をスタッフ間で共有した。

5-5 施設の維持管理

令和6年度も中・小規模の補修工事をいくつか行った。令和5年度に続き利用者ロッカーで不具合が多発し、その都度、入替を行った他、施設自体の老朽化にともなう各種不具合に対し修繕等の対応を行った。

■ロッカー扉交換・台交換

劣化が原因とみられる不具合が続出したため、令和6年7月10日(水)にロッカー大1台のテンキーを交換、8月28日(水)にはロッカー大・中の扉の交換を行った。その後11月26日(火)にもロッカー大でテンキー不具合が発生、12月25日(水)にテンキーを交換した。

■入口自動ドア交換

正面入り口の自動ドア開閉時に異音がするため詳細な点検を実施した結果、経年劣化に枠の部分が膨張しガイドレールと接触したことで異音が発生していた。令和6年12月25日(水)～27日(金)に自動ドアの交換工事を実施。施設名や開館時間のカットニングシート貼り付け作業は令和7年3月12日(水)に実施。

なお入口付近については、令和6年5月8日(水)にロールスクリーンの交換、令和7年3月24日(月)～26日(水)に壁と天井の壁紙の貼り換えを行った。

このほか、仙台市により令和6年11月11日(月)にサポートセンター前点字ブロック付け替え・延長作業が行われた。

■入口サイネージ交換

令和6年11月6日(水)に、館内入口のサイネージモニターの画面の上部が破損し、映像の投影ができなくなっていた。令和7年1月17日(金)にモニターを交換した。

■市民活動シアター 床・扉・壁紙の修繕

令和6年4月24日(水)に市民活動シアターの備品庫前の剥離した床面の修繕工事を実施した。

12月には、ピアノ庫と劇場間のドアが閉まらない不具合が発生。業者に対アクローザー交換を依頼した。

このほか令和7年3月24日(月)～26日(水)には、シアター利用の際プロジェクターの映像を投影するためにも使われる壁面の汚損を改善するために壁紙張替を行った。

■3階女子トイレ 便座の修繕

令和6年11月に3階女子トイレの便座の蓋破損を発見した。令和7年4月に交換予定。

■膨張タンク異常

令和7年3月27日(木)屋上にある膨張タンクに異常が発生した。業者に対応依頼したところパーツの交換が必要とのこと。令和7年4月に交換予定。

6. 事業報告

事業 1	情報収集提供事業	P37
事業 2	相談事業	P45
事業 3	人材育成事業	P49
事業 4	協働に関する理解促進及び機会創出事業	P61
事業 5	調査研究事業	P69

個別事業報告書

【事業 1】情報収集提供事業	
事業目的	1. 市民目線での情報発信を活性化する。 2. 市民活動と協働について広く市民へ伝える。 3. 多彩な市民活動や、市民が気づいた地域の課題、協働による課題解決の取り組みなどについて、活発に情報受発信される環境を整える。
成果目標	・市民が団体情報や活動に有益な情報に触れる機会を増やす。 ・まちづくりに関心を持ち、取り組む人材を増やす。
実施目標	・ブログの訪問者数(ユニークユーザー)年間 40,000 件以上 ・ブログ投稿数 250 件以上 ・事業者の社会貢献活動事例や協働事例の紹介 年間 5 件以上
成果	1.市民ライターの育成・活用 ①地域メディア談話室 ・令和6年5月から毎月定期開催し 11 回実施。計 55 名が参加した。 ・多彩なテーマやゲストをきっかけに、地域の情報発信に興味がある人をはじめ、仙台市への転入者、高校生、普段サポートセンターを利用していない人など、様々な人に参加してもらい、地域に目を向けてもらうことができた。 ・アンケートの「あなたが地域の情報発信をする際、参考にしたいことはありましたか？」という問いに対し、「あった」「大いにあった」と答えた人は全体の 86% にのぼった。地域の発信者や活動を始めてみたい人にとって、多様な情報収集や学び合いの場、刺激を受けとれる場にできたことが伺える。 ・地域の情報発信に初めて挑戦する人でも、「自分の視点で自由に伝えて良い」「自分にもできるかも」という気持ちに達してもらうことができた。 ・令和 3 年度「ローカルメディアコンパスをちょっと体験」や、令和4年度「地域メディア談話室」参加者がリピーターとなり複数回参加。何度も来たいと思ってもらえるような場づくりができた。学生から社会人になって再び参加した人もおり、地域に関心を持ち続ける市民を増やすことができた。 ②まちネタ発見おでかけ企画 ・2名が、市民活動の現場をそれぞれ訪れ、活動に触れることができた。 ・触れた活動について、現地の様子や自身が感じたことを、サポートセンターブログの記事にし、多くの人へ発信する機会を提供できた。 ③市民目線での情報発信促進のための伴走支援 ・音楽で人やまちをつなぐ音楽情報サイト OtoHub の運営や、音楽に関わる人同士のゆるやかなつながりづくりを目的に活動する MUSIC HUB PROJECT と共催で「つながる音楽室」を実施。55 人が来場した。イベントを通して MUSIC HUB PROJECT メンバーは団体の運営課題と向き合い、オンラインメインの活動に転換するきっかけとなった。 ・地域メディア運営者とのネットワークを構築するため、イベントへ参加や発信者への取材を行い「地域メディア談話室」への参加およびゲスト参加につなげた。

	2.機関誌『ばれっと』の発行 P16「3-5. 情報発信 (1)サポートセンター通信『ばれっと』の発行」参照 3.市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般 (1)市民活動、協働等に関する情報の収集および提供 ①マチノワひろば 展示数:12 企画 内、自己使用 3 企画 (令和 5 年度 12 企画 内、自己使用 2 企画) ②マチノワギャラリー 展示数:14 企画 内、自己使用 3 企画 (令和 5 年度 12 企画 内、自己使用 1 企画) (2)市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 P15「3-4.図書の貸出」参照 (3)市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 P13「3-1.情報掲示等利用」参照 (4)サポートセンターのホームページの管理及び更新 P17「3-5.情報発信 (2)ホームページの管理」参照 (5)そのほか情報収集提供業務全般 P18「3-5.情報発信 (3)ブログの管理」参照 P18「3-5.情報発信 (4)X(エックス)の管理」参照 P19「3-5.情報発信 (5)YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」参照 P19「3-5.情報発信 (6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」参照
課題	「市民活動」や「協働」に対する理解の浸透と、市民活動への関心の拡大。
実施概要	1.市民ライターの育成 ①地域メディア談話室 日 時:令和6年5月～3月まで月1回程度開催 会 場:サポートセンター1階 マチノワひろば ※令和6年6月30日 3階 研修室2 令和7年1月10日 4階 研修室5 令和7年3月14日 4階 研修室5 ゲスト:令和6年9月 Web メディア「仙台 SEMI-J」運営者 佐藤卓さん 令和7年1月 ブログ「宮城妖怪事典」 佐藤卓さん 令和7年3月 「青葉 伊達チャンネル」運営者 青葉龍汰さん フリーライター・インタビュアー 佐々木佳さん 名取老女研究会 中塩純子さん 対 象:地域のために何か発信してみたい人、伝えることで地域を盛り上げたい人、すでに地域の情報発信をしておりネタを探している人、情報交換したい人など 定 員:なし 参加費:無料

内 容:○ひらめき発掘編

メディアリテラシーを学ぶ情報交換と地域の気になる話題や市民目線での情報発信についての意見・情報交換交換。

ゲストのいる会は、加えてゲストによる情報提供も行う。

○ときめき実践編

小冊子 ZINE を手作りするワークショップ。各回テーマを設けて、参加者が1人1ページを担当。参加者全員で1冊の ZINE を共同制作する。

ひらめき発掘編		
日時	ゲスト	参加人数
令和 6 年 5 月 10 日(金) 18:30~20:00	参加者1名が講座趣旨と無関係な発言を続けたため中止	
令和 6 年 7 月 12 日(金) 18:30~20:00	なし	1名
令和 6 年 9 月 13 日(金) 18:30~20:00	Web メディア「仙台 SEMI-J」 運営者 佐藤卓さん	8名
令和 6 年 11 月 8 日(金) 18:30~20:00	なし	2名
令和 7 年 1 月 10 日(金) 18:30~20:00	ブログ「宮城妖怪事典」 佐藤卓さん	13名
令和 7 年 3 月 14 日(金) 18:30~20:30	「青葉 伊達チャンネル」運営者 青葉龍汰さん フリーライター・インタビュアー 佐々木佳さん 名取老女研究会 中塩純子さん	14 名
計		38名

ときめき実践編		
日時	テーマ	参加人数
令和 6 年 6 月 8 日(土) 14:00~15:30	宮城の人に伝えたい 推しグルメ	1名
令和 6 年 6 月 30 日(日) 10:30~12:00	どこ案内する？宮城観光3日目！	3名
令和 6 年 8 月 10 日(土) 14:00~15:30	仙台・夏のカケラ	3名
令和 6 年 10 月 12 日(土) 14:00~15:30	わたしのオリジナル散歩コース	2名
令和 6 年 12 月 14 日(土) 14:00~15:30	ときめく宮城のデートスポット	3名
令和 7 年 2 月 8 日(土) 14:00~15:30	行ってみよう！宮城の聖地巡礼	5名
計		17名

②まちネタ発見おでかけ企画

日時	令和 6 年 9 月 22 日(日) 10:00~14:00
会場	幸町市民センター
対象	過去地域メディア談話室参加者や、市民ライター講座受講者
定員	4 名程度(お出掛け先による)
参加者	1 名
参加費	なし(実費は参加者負担)
内容	「よりみち～のんびり食堂」の見学、体験、取材

日時	令和 6 年 9 月 27 日(金) 11:00~19:30 の間
会場	ターンアラウンド
対象	過去地域メディア談話室参加者や、市民ライター講座受講者
定員	4 名程度(お出掛け先による)
参加者	1 名
参加費	なし(実費は参加者負担)
内容	「せんだい 21 アンデパンダン展 2024」の見学、体験、取材

③市民目線での情報発信促進(伴走支援)

つながる音楽室 (MUSIC HUB PROJECT とサポートセンターの共催)

日時	令和 6 年 6 月 30 日(日) 10:00~17:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター
ゲスト	・仙台フィルハーモニークラブ 会長 長島榮一さん ・公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 代表理事 武藤政寿さん ・とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI 実行委員長 田村 真衣(欠席)
対象	音楽に関わっている人や、音楽に関心のある一般市民など
定員	なし
参加者	55 名
参加費	なし
内容	・OtoHub 説明会&交流会 音楽情報発信サイト「OtoHub(オトハブ)」の概要説明・意見交換 会意見交換会テーマ「不要不急の音楽の明日～音楽っていないの?～」 ・音楽体験バザール ピアノやドラム、コントラバスや民俗楽器など様々な楽器を体験できる音楽体験ワークショップ ・パネルディスカッション 音楽に関わる多様なゲストとともに行う意見交換 テーマ「音楽のエコシステム～仙台の音楽って誰のもの?～」

2.機関誌『ばれっと』の発行

- ①発行 毎月1日～5日の間 月／3,000部
- ②仕様 A4 両面フルカラー(計8回)、A3 両面フルカラー(計4回)
- ③構成 下記、12 コーナーから紙面編集に合わせて毎号選択し掲載する。
 ワクワクビト／ちまたのコラボ(協働)／突撃レポート／今、私にできること／お役立ち本／コトハジメ／活動に＋(プラス)／募集して／このたびカタチになりまして／私のあしあと／気になる〇〇／インフォメーション
- ④工程 1号あたり、編集会議から納品まで約1ヶ月半
 3号分の工程を同時進行(2 チーム制 隔月進行)

3.市民活動、協働等に関する情報の収集提供業務全般

(1)市民活動、協働等に関する情報の収集および提供

①マチノワひろば

期間	企画	設置者・主催者
令和6年4月1日(月) ～4月30日(火)	コトハジメ特集	自主企画
令和6年5月1日(水) ～5月31日(金)	化学物質過敏症合理的 配慮	みやぎ化学物質過敏症 の会～ぴゅあい～
令和6年6月1日(土) ～6月30日(日)	マチノワ POP！UP！ PR 展示	自主企画
令和6年7月1日(月) ～7月31日(水)	こんにちわ NACS で す！消費生活への安全・ 安心・持続可能な取組 を知ってください	公益社団法人日本消費 生活アドバイザー・コン サルタント・相談員協会 東北支部(NACS)
令和6年8月1日(木) ～8月30日(金)	東北大学学習支援セン ターSCC の取り組み紹 介	東北大学学習支援セン ターSCC (Student Community College)
令和6年9月1日(日) ～9月30日(月)	歴史探訪日高見国研究 会のあゆみ	歴史探訪日高見国研究 会
令和6年10月3日(木) ～11月8日(金)	仙台 ZINE の森	仙台 ZINE の森実行委 員会
令和6年11月14日(木) ～12月5日(木)	U=U 知ることから、も う一度。12月1日は 世界エイズデー。	やろっこ
令和6年12月7日(土) ～令和7年1月5日(日)	想いを届ける寄付のか たち	自主企画
令和7年1月6日(月) ～1月31日(金)	サーキュラーファイトク ラブ 2024 成果報告展	海辺のたからもの
令和7年2月1日(土) ～2月28日(金)	まち歩き活動報告	宮城野原案内人の会
令和7年3月4日(火) ～3月30日(日)	WAMIT's 活動紹介	仙台市ユースリーダー WAMIT's

②マチノワギャラリー

期間	企画	設置者・主催者
令和6年4月1日(月) ～5月6日(月)	かけこみ未来塾	一般社団法人東北駆け込み寺
令和6年5月11日(土) ～5月31日(金)	5月30日は「ごみゼロ」の日	NPO 法人 green bird 仙台チーム
令和6年6月1日(土)～ 6月30日(日)	マチノワ POP！UP！ PR 展示	自主企画
令和6年7月1日(月) ～7月31日(水)	守りたいひとがいるあ なたにいま知ってほし い	一般社団法人 三陸&東 海防災フォーラム伝
令和6年8月1日(木) ～8月31日(土)	仙台自主夜間中学「学 ぶことは生きること」	仙台自主夜間中学
令和6年9月2日(月) ～9月13日(金)	防災月間～災害への備 えを	自主企画
令和6年9月14日(土) ～9月29日(日)	通い合う地球のことば ようこそ エスペラント へ	仙台エスペラント会
令和6年10月1日(火) ～10月12日(土)	仙台市内公園総選挙！	自主企画
令和6年10月13日(日) ～10月31日(木)	見渡せば、知らないこと ばかりのこの世界。み んなでドキュメンタリー 映画を観て、まずはゆっ くり近づいてみよう。	吉岡宿にしぴりかの映 画祭実行委員会
令和6年11月2日(土) ～12月1日(日)	中村哲医師追悼5周年 企画 中村哲医師が示 す生活と平和	中村哲先生(ペンシャワ ール会)に学ぶ会
令和6年12月5日(木) ～令和7年1月5日(日)	伝統「仙台門松」を知ろ う	仙台門松・みやぎの発信 隊
令和7年1月6日(月) ～1月31日(金)	サーキュラーファイトク ラブ 2024 成果報告展	海辺のたからもの
令和7年2月1日(土) ～2月28日(金)	まち歩き活動報告	宮城野原案内人の会
令和7年3月16日(日) ～3月31日(月)	てんかん啓発キャンペ ーン「パープルデー」	公益社団法人日本てん かん協会宮城県支部

	(2)市民活動、協働等に関する図書資料の収集、管理及び貸出 P15「3-4.図書の貸出」参照 (3)市民活動団体等のチラシ、ポスター等の受付、掲示及び関係施設への配布 P13「3-1.情報掲示等利用」参照 ・市民活動イベント掲示板～仙台に情報の背骨を通すプロジェクト(骨プロ)～ 連携施設間会議 日 時:令和6年6月21日(金)13:00～14:30 会 場:サポートセンター4 階 研修室 5 出席者:7 施設・所管部署から計 8 名 内 容:骨プロ主旨、チラシ受付の流れ・ルール説明、連携施設同士の情報交換 (4)サポートセンターのホームページの管理及び更新 P17「3-5.情報発信 (2)ホームページの管理」参照 (5)そのほか情報収集提供業務全般 P18「3-5.情報発信 (3)ブログの管理」参照 P18「3-5.情報発信 (4)X(エックス)の管理」参照 P19「3-5.情報発信 (5)YouTube チャンネル『サポセンちゃんねる』の管理」 参照 P19「3-5.情報発信 (6)NPO 法人向け助成金情報メールマガジンの運用」参照
添付	■広報物 ■配布資料 ■アンケート結果 ■その他(マチノワひろば・ギャラリー 展示感想シート、ぱれっと、ぱれっと読者の声)

個別事業報告書

【事業 2】相談事業	
事業目的	サポートセンター内外で多様な主体の相談に応じることのできる環境を整える。
成果目標	地域の課題に気づいた市民が課題解決に自ら取り組み、必要に応じて多様なまちづくりの主体が協働で課題解決に取り組める状況をつくる。
実施目標	年間相談件数 900 件、活動相談件数 400 件
成果	1. 相談対応 実施目標に対し、年間相談件数1,172件、うち活動相談件数491件と年間目標件数を達成した。 (1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 P20～「4.相談・問い合わせ対応」参照 (2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応 ①市民協働事業提案制度事前相談 令和7年度実施事業の事前相談 16件(オンラインでの相談0件) ②地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業事前相談 令和7年度実施事業の事前相談 21件(オンラインでの相談5件) 2. 相談ツールの活用 ①市民活動お役立ち情報 P14「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 ②動画版「市民活動お役立ち情報」 P14「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 3. 伴走相談・アウトリーチ相談 (1)伴走相談 継続対応中の伴走相談を46件実施。活動のペースに合わせて相談対応した。 (2)アウトリーチ相談 ①アシ☆スタ起業・創業なんでも相談 DAY 公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参加。年間を通して、5件の相談に対応した。 ②その他 ・アウトリーチ相談は令和5年度の37件から50件に増加。相談のフォローアップとして現場訪問を行った。 ・新規伴走相談候補として対応をしたのは19件あり、継続伴走相談として対応したのは46件あった。 4. 協働実践者の活用 協働の現場を訪問し、関係者と顔が見える関係を構築することを目的として企業・団体等を訪問した。令和6年度は、協働実践者同席による専門相談を2件コーディネート。うち1件は、コーディネート後に協働でイベントが開催された。他1件は、相談者が協働実践団体のイベントに参加することで手法を学ぶ機会をつくった。

課題	1.相談対応 ロッカー・貸室利用の団体は施設利用自体が目的のため、相談の機能があまり知られていない。(利用団体 1,438 団体中、相談利用団体は7割弱の973団体に留まっている) 2.相談ツールの活用 動画版「市民活動お役立ち情報」の公開動画が令和4年度から増えていない 3.伴走相談・アウトリーチ相談 地域にいる支援者や地域の実情に詳しいキーパーソンなどを把握しきれていない。 4. 協働実践者の活用 相談者に協働実践者をつなぐ機会が複数あったが、協働実践者とその知見を基に助言する専門相談にまで発展したのは年間 2 件にとどまった。相談者と協働実践者をつなぐには、サポートセンターが双方との信頼関係を構築していることが前提になるが、活動の現場を訪問する機会がまだまだ少なく、関係構築できている協働実践者が限られている。
実施概要	1. 相談対応 (1)市民活動のはじめ方、市民活動団体の運営、法人格の取得等、市民活動全般に関する相談対応 P20～「4.相談・問い合わせ対応」参照 (2)市民活動団体間の協働や、多様なまちづくりの主体間の協働を進めるために必要な相談対応 ①市民協働事業提案制度事前相談 令和7年度実施事業の事前相談(令和6年6月～7月) 会場:仙台市市民活動サポートセンター及びオンライン ②地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業事前相談 令和7年度実施事業の事前相談(令和6年10月～12月) 会場:仙台市市民活動サポートセンター及びオンライン 2. 相談ツールの活用 ①市民活動お役立ち情報 P14「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 ②動画版「市民活動お役立ち情報」 P14「3-3.市民活動団体への情報提供」参照 3.伴走相談・アウトリーチ相談 (1)伴走相談 思いの整理から、立ち上げ相談、事業計画、広報相談など相談者の求めに応じて継続的な相談に 46 件対応した。 (2)アウトリーチ相談 ①アシ☆スタ起業・創業なんでも相談 DAY 公益財団法人仙台市産業振興事業団が運営する仙台市起業支援センター「アシ☆スタ」主催の「起業・創業なんでも相談DAY」に出張相談員として参加した。 実施日時:原則毎月第3水曜日 13時30分～16時30分

②その他

○まちづくり活動助成事業

以下、事業報告会、事業計画説明会を見学し情報収集を行った。

【青葉区】

・令和7年3月12日(水)令和7年度青葉区まちづくり活動助成事業計画説明会

【宮城野区】

・令和7年2月14日(金)令和6年度宮城野区まちづくり活動助成事業報告会

・令和7年3月5日(水)令和7年度宮城野区まちづくり活動助成事業計画説明会

→相談 1 件

【若林区】

・令和6年6月15日(土)令和6年度若林区まちづくり活動助成二次募集事業計画説明会

・令和7年1月22日(水)令和7年度若林区まちづくり活動助成事業ガイダンス

→相談 1 件

・令和7年3月1日(土)令和7年度若林区まちづくり活動助成事業計画説明会

→相談 1 件

【太白区】

・令和6年6月1日(土)令和6年度太白区まちづくり活動助成二次募集事業計画説明会

・令和7年2月1日(土)令和6年度太白区まちづくり活動助成事業報告会

→相談 1 件

・令和7年3月9日(日)令和7年度太白区まちづくり活動助成事業計画説明会

【泉区】

・令和7年3月5日(水)令和6年度泉区まちづくり活動助成事業報告会

・令和7年3月5日(水)令和7年度泉区まちづくり活動助成事業計画説明会

○仙台スポーツ・サポーターズ・ネットワーク(SSSN)での相談

→年間 5 件

○その他のアウトリーチ相談41件(一部を抜粋して掲載)

・令和6年6月19日(水)地域創生第16回ビジネス商談会

→相談2件

・令和6年6月30日(日)SDGs マルシェ出展

→相談6件

・令和6年8月26日(月)環境局と学生の意見交換会へ同席

→相談1件

・令和6年8月31日(土)学生団体の定期交流会に参加

→相談1件

・令和6年9月18日(水)宮城野区中央市民センター

→市民からの相談 1 件

・令和6年11月25日(月)仙台市社会福祉協議会太白事務所

「令和6年度小地域ネットワーク研修チラシづくりのコツ」講師

→相談 1 件

・令和7年1月24日(金)泉区町内会長研修会

→相談4件

・令和7年2月22日(土)INTILAQ

「Social Impact Accelerator プログラム」令和6年度最終報告会

→相談2件

・令和7年3月15日(土)西多賀地区社会福祉協議会「福祉委員交流会」

→相談1件

	4.協働実践者の活用 協働現場の訪問・関係作り ○仙台スポーツサポーターズネットワーク(SSSN) 令和6年4月23日(火)、5月21日(火)、6月18日(火)、7月16日(火)、8月27日(火)、9月17日(火)、10月15日(火)、12月17日(火)、令和7年1月21日(火)、2月18日(火)、3月18日(火)参加 ・令和6年4月8日(月)部活動の地域移行勉強会(主催:SSSN)参加 ○令和6年4月21日(日)SV2004×プラスクロス センサリールーム スタッフがボランティアとして参加 ○シニアサロン井戸端会議 ・令和6年9月20日(金)シニアサロン井戸端会議 井戸端塾参加 ○La boite a jouets—音楽の、おもちゃ箱—×プラスクロス 協働イベント ・令和6年12月15日(日)「おはなしクラシック4 どなたでもコンサート」参加 ○仙台市市民協働事業提案制度 令和5・6年度採択事業 7DAYS,Peace.(七北田公園活性化協議会) ・令和6年11月16日(土)「語り火」訪問 ○地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業 令和5・6年度採択事業 虹の丘連合町内会×学校法人三島学園 ・令和6年10月26日(土)訪問 ○ユースチャレンジ! コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度) 令和6年度採択事業 NPO 法人 UBUNTU ・令和6年11月16日(土)「あべこべマルシェ」訪問 令和6年度採択事業 TGU 情報リテラシー教室 ・令和6年12月21日(土)訪問 ○その他 ・令和6年9月24日(火)寺岡緑地愛護協力会 訪問 ・令和7年2月10日(月)商店街サミット 訪問 協働実践者による専門相談 ・令和6年9月20日(金) NPO法人シニアサロン井戸端会議の活動の現場へ相談者と訪問 ・令和6年11月11日(月) 市民活動団体へセンサリールーム設置に向けた専門相談を実施 (専門相談員:プラスクロス)
添付	☐ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他()

個別事業報告書

【事業3】人材育成事業	
事業目的	地域や社会の課題の解決に様々な形で関わる市民を増やし、その潜在能力を引き出すことで、価値観の変化や地域の存立に大きな影響を与える課題にもしなやかに対応できる人材を育成する。
成果目標	事業参加を通してその後の行動や活動に変化がもたらされた事例を5年間で100件以上生み出す。
実施目標	若者の人材育成に資する事業を、関係機関等とも連携しながら2事業以上実施年間の延べ事業参加者数70人以上
成果	1. 支える市民を増やす (1) ちょっとボランティア 市民活動に関心がある市民でも、団体についての情報があまりないまま、いきなりメンバーとして活動していくのはハードルが高い。そこで、手軽にボランティアを体験できるイベントを実施して、活動の現場を見てもらう機会をつくるとともに、サポートから市民活動の探し方などの情報を提供し、はじめの一步をサポートした。 参加者は、全5回の実施で合わせて67人。うち31人がボランティアの経験がなく、市民活動のはじめの一步を支援することができた。 ①NPO 法人 green bird 仙台チーム ・まちにもっと関わりたいと考える転入者の方や地域清掃活動を始めたいと考えている方など、計4名が参加。平均満足度は5段階評価で4.0点。 ・アンケートでは、「様々な世代の方と一緒に清掃できて気持ち良かった」「初めてあった人と話しながらできたのが楽しかった」などの感想が寄せられた。 ・開始前に、参加者からの、「自分の住んでいる地域でも清掃活動を始めたい」という相談に対応、何から始めればよいかの整理を手伝った。 ②NPO 法人ワンダーアート ・ボランティア活動に興味がある市民や社会教育士実習の学生など、計10名が参加。平均満足度は5段階評価で5.0点。 ・アンケートでは、「アートを通じて思いを届ける活動に参加出来てよかった」「クリスマスカードをつくりながら他の参加者と交流できたのが楽しかった」などの感想が寄せられた。 ・参加者の中には、上記①のちょっとボランティア参加者もいて、ボランティアに参加してみたいという気持ちをさらに促進することができた。 ③仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会) ・もともと切手を集めていた方や国際貢献に興味がある方など、計23名が参加。平均満足度は5段階評価で4.7点。 ・アンケートでは「これまで集めてきた切手がどのように医療に役立てられているか知れて良かった」「初めてだったが楽しく活動できたので、また参加したい」といった感想が寄せられた。 ・参加者の中には、その後の仙台 JOCS のきってきっぺに継続的に参加している方もいて、ボランティア活動を始めるきっかけを作ることができた。

④深沼ビーチクリーン

- ・子どもに環境問題を知ってほしいと考える親子連れを中心に、計10名が参加。平均満足度は5段階評価で4.5点。
- ・アンケートでは、「たくさんプラスチックゴミが落ちていてびっくりした」「子どもと海を見ながらごみ拾いもできてとても充実した時間を過ごせた」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中には、今後も2か月に一度くらいのペースで参加したいという親子もいて、活動者を増やすことにつながった。

⑤仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)

- ・令和6年10月開催時に定員の都合上お申し込みをお断りせざるをえない方が多数いたため、切手整理のボランティアを再度開催したところ定員を超える申し込みがあった。
- ・もともと切手を集めていた方やボランティアに興味がある方など、計20名が参加。平均満足度は5段階評価で4.3点。
- ・アンケートでは、「時間のある時に参加してみようと思った」「自分にも手伝えることがあってよかった」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中には、これからも切手整理のボランティアに参加したいという方や今後周囲の人にも切手を集めるように声かけするという方もいて、次のアクションにつながった。

(2)いづいっちゃんねる上映会

何かしたいと思いを持つ市民活動関心層が、社会課題や市民活動に触れられる機会として、いづいっちゃんねるの上映会を全2回実施、計8名が参加した。参加者同士の意見交換を通じて、社会課題や地域課題への理解を深める機会を提供できた。

①いづいっちゃんねる上映会「皆で考える。『普通』って何だろう？」

- ・「普通とは何か」というタイトルに惹かれた方など、計4名が参加。平均満足度は5段階評価で4.5点。
- ・アンケートでは、「『普通』の基準なんて元々なく、個性を押さえつけなくてよいのだと思えた」「参加者との議論を通じて、偏見に囚われず相手を一人の人間としてコミュニケーションをとることが大切だと思った」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中には、動画で取り扱ったNPO法人ワンダーアートでのちょっとボランティアに参加した人がおり、行動を起こすきっかけとなった。

②いづいっちゃんねる上映会「皆で話そう。『心地よいつながり』のこと」

- ・コミュニティの中で居心地の悪さを感じたことのある方など、計4名が参加。平均満足度は5段階評価で4.8点。
- ・アンケートでは、「これまで知らなかった形のコミュニティを知ることができてよかった」「自分もコミュニティを運営しているが、これからはスロコミのように『ゆるく』『ゆっくり』楽しむことを心がけたいと思った」といった感想が寄せられた。
- ・参加者の中から、動画で取り扱ったNPO法人スロコミが活動する長町地域の活性化に今後協力したいという方がいた。地域課題を認識し、実践するきっかけとなった。

(3) いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編

- ・全館イベントに出展した団体から、合計6団体のゲストを招き、一つの配信を視聴するだけで、様々な分野の市民活動に触れられる番組をつくることができた。ゲスト団体のグッズを、サポセン1階のマチノワ購買部で購入するなど、視聴者に多様なアクション例を提供でき、活動の一步を応援した。
- ・全館イベントに併せて、1 時間番組を 2 回配信。当日リアルタイム視聴者数は配信視聴者、会場視聴者あわせて 12 人。
- ・令和6年度の動画再生回数は、のべ 287 回(令和 7 年 3 月末時点)

2. 活動力強化講座**(1) ナゼなに協働**

- ・仙台市の協働促進の諸制度への参加応募を検討している団体等の人材に対し、協働に取り組むための基礎を学び、協働について考える機会を提供した。市民活動団体の他に、行政職員、企業の CSR 担当者の受講もあり、協働の理解を深める内容を提供できた。受講者のうち1団体が、仙台市地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業に申請。他、受講者2団体に対して、問題の根幹は協働ではなく資金調達であると整理、その後の伴走相談につながった。
- ・令和6年5月実施時は、5 団体 9 名が参加。平均満足度は 5 点満点中 4.4 点、平均理解度は 5 点満点中 4.6 点だった。参加者の多くが、市の協働に関する制度への申請を考えていた団体の方だったため、申請に必要な準備など具体的な質問がなされた。
- ・令和6年 10 月実施時は、1 団体 1 名が参加。満足度は 5 点満点中 4.0 点、理解度は 5 点満点中 4.0 点だった。参加者の協働に関する理解を促進できた。

(2) 資金調達講座

- ・令和5年度まで実施してきた「NPO お金のアレコレシリーズ」での反応や、相談対応の傾向から、サポセンを利用している団体にとって、最も整理が必要なのは、助成金を含めた NPO の資金調達の考え方であることが見えてきた。今年度は助成金の申請のコツなども盛り込んだ資金調達講座を実施し、NPO の資金調達についての考え方を整理する場を設け、個別相談へとつなげることができた。

① 基礎からわかる「NPO 資金調達講座」(8/31 実施)

- ・市民活動団体の資金調達に携わっている方など 10 名が参加し、平均満足度は 5 点満点中 4.2 点、平均理解度は 5 点満点中 4.6 点。
- ・参加者アンケートでは、「助成元の思いや考え方が分かってよかった」「学んだポイントを活かして早速申請手続きをしたい」といった感想があがった。
- ・参加団体のうち 2 団体が、後日の活動相談につながった。

②基礎からわかる「NPO 資金調達講座」(1/31 実施)

- ・市民活動団体の資金調達担当者など 8 名が参加し、平均満足度は 5 点満点中 4.3 点、平均理解度は 5 点満点中 4.1 点。
- ・参加者アンケートでは、「助成金はハードルが高いものだと思っていたが、チャレンジしても良いのだと思えた」「今回の話を聞いて改めて資金調達についてメンバーと見解をすり合わせたい」といった感想が寄せられた。
- ・参加団体のうち 1 団体が、後日の活動相談につながった。

3. 事業参加者フォローアップ

令和 6 年度、聞き取りして、活動の動きが確認されたのは、63 団体 120 件、令和 2 年度、3 年度、4 年度、5 年度と合わせると 476 件だった。その結果、「事業参加を通じた行動や活動の変化がもたらされた事例を 5 年間で 100 件以上生み出す」という成果目標を大きく上回った。以下、相談者の成果事例を 3 件掲載する。

事例 1 サポートセンター主催講座「なぜなに協働」受講団体

令和 6 年 5 月の「なぜなに協働」を受講後、伴走相談へとつながった団体。9 月に団体の活動現場を訪問し、地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業への申請について改めて検討。仙台市の協働に関する制度を利用しても、自団体の抱える資金面の課題を解決できないと整理。以後、寄付の集め方について相談対応。令和 7 年 2 月には、クラウドファンディングの実施に向けて、関係団体への根回しを始めている旨の報告があった。

事例 2 事業参加から活動開始

令和 6 年 8 月の海岸清掃ボランティア体験会に参加した個人から、地域清掃活動の立ち上げについて相談を受けた。翌月、近況を尋ねた際、「まずは一人でできることからやってみる」と、1 日 1 回のペースでお住まいの地域の清掃活動を始めたとの報告があった。

事例 3 市民活動団体と協働実践者の協働をコーディネート

文化芸術分野の市民活動団体から、センサリールーム設置について専門的な知識のあるところと協働したいとの相談を受けた。過去の相談対応から関係構築をしていた協働実践者(市民活動団体と企業)と相談者をつなぎ、話し合いの場を設け、令和 6 年 12 月、センサリールームを設置したコンサートを協働で開催するに至った。

	4. 若者の人材育成に資する事業への協力 (1) 仙台まちづくり若者ラボ 2024 ・6 チームのうち 2 チームにアウトリーチ。活動状況をサポートセンターのブログで掲載し、情報発信に協力した。 ・若者ラボ期間終了後もチームとしての活動を続けるグループはなかったが、若者ラボのチームメンバーから自身の取り組みとして同テーマの活動をはじめたいという相談を受けた。 (2) 仙台若者 SDGs アワード ・サポートセンターのブログや団体への声掛けで、アワード募集の広報協力を行った。 ・最終審査会とその前に開催された交流会の実施のための会場を提供した。 ・アワード応募団体による交流会に参加。交流会参加者のうち 1 団体が助成金申請の伴走相談につながった。 (3) 社会教育士実習受け入れ 令和6年度から、市民活動団体の活動現場を訪問取材し、執筆した記事をブログで公開するプログラムを取り入れ、情報発信を通じたまちづくりに参画する機会をつくった。ボランティア体験にも参加してもらい、実際に市民活動に参加する機会を提供した。 (4) ユースチャレンジ！コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度) ・センター長が、令和6年度ユースチャレンジ！コラボプロジェクトの審査員として協力。 ・令和7年2月に開催された令和7年度の募集説明会、令和7年3月に開催された令和7年度事業報告会に会場を提供。
課題	1. 支える市民を増やす (1) ちょっとボランティア 令和6年度はボランティア体験の前に、サポートセンターからボランティア情報の集め方などの情報提供をしていたが、既存の団体への参加以外の、寄付や活動の立上げといった多様な活動への関わり方を提示することができなかった。 また、ボランティア受け入れ団体へのフォローアップも一部の団体にしかな行うことができなかった。 (2) いづいっちゃんねる上映会 参加者のイベント参加後の行動の変化を十分にフォローすることができなかった。 (3) いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編 X(エックス)なども活用したが、TOHOKU360 との協働ではなくなったこともあり、無関心層へのアプローチや拡散力が不足していた。また 1 団体あたり 15 分のインタビューでは、活動の背景や思いの部分まで深掘りが難しく、ゲストとインタビュアーの打合せの機会がなかったことで、内容のすり合わせが難航した。過去のいづいっちゃんねるの集大成として、これまでの視聴者の変化やアクションを発表したが、配信という特性上、視聴者の行動の変化をフォローアップするのが難しかった。

	2. 活動力強化講座 (1)ナゼなに協働 ・令和6年10月実施時は、参加者が1団体1名だけだった。協働についての情報を必要としている団体に、どのように情報を届けるかが課題である。 ・令和5年度まで協働ゼミのプログラム内で実施していたワークショップを、出前相談として実施する計画だったが、講座から協働に関する伴走相談につながらなかったため、実施できなかった。 (2)資金調達講座 参加者からの質問や講座終了後の相談対応から、活動資金に課題があると思っている団体が、意思決定や事業運営など、活動資金以外の側面にも課題があることが分かった。また、資金調達がうまくいっていると思っている団体にも、改善の余地があることが伺えた。 3. 事業参加者フォローアップ 令和 5 年度の会計講座参加者等へのフォローアップを通じて、市民活動団体の課題はそれぞれの団体で異なり、集合講座による情報提供は団体のニーズとかみ合うとは限らないことが見えてきた。サポートセンター内で講座を実施するのではなく、団体の活動の現場に赴いて、出前講座や専門家同行のアウトリーチなど、異なるフォローアップ方法も視野に入れる必要がある。 4. 若者の人材育成に資する事業への協力 若者 SDGs アワードでは一部の参加団体にしかフォローアップができていないため、継続したフォローアップを行うためには、協力する事業の担当者と情報交換を積極化することが課題である。												
実施概要	1. 支える市民を増やす (1)ちょっとボランティア 「地域や社会のために何かしたい」という方を対象に、はじめの一步を後押しするボランティア体験イベントとして「ちょっと。ボランティア」を計 5 回開催した。 ① NPO 法人 green bird 仙台チーム <table border="1" data-bbox="416 1413 1390 1765"> <tr> <td>日時</td><td>令和6年 8 月 22 日(木)18:20~19:20</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>仙台市市民活動サポートセンター1F マチノワひろば集合</td></tr> <tr> <td>受入団体</td><td>NPO 法人 green bird 仙台チーム</td></tr> <tr> <td>対象</td><td>市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方</td></tr> <tr> <td>参加者</td><td>4 人(定員 10 名)</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>青葉区一番町地区を「カッコイイまち」にするための、ごみ拾いのボランティア活動を体験。</td></tr> </table>	日時	令和6年 8 月 22 日(木)18:20~19:20	会場	仙台市市民活動サポートセンター1F マチノワひろば集合	受入団体	NPO 法人 green bird 仙台チーム	対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方	参加者	4 人(定員 10 名)	内容	青葉区一番町地区を「カッコイイまち」にするための、ごみ拾いのボランティア活動を体験。
日時	令和6年 8 月 22 日(木)18:20~19:20												
会場	仙台市市民活動サポートセンター1F マチノワひろば集合												
受入団体	NPO 法人 green bird 仙台チーム												
対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方												
参加者	4 人(定員 10 名)												
内容	青葉区一番町地区を「カッコイイまち」にするための、ごみ拾いのボランティア活動を体験。												

② NPO 法人ワンダーアート

日時	令和6年 9 月 18 日(水)10:00~12:00
会場	ワンダーアートスタジオ
受入団体	NPO 法人ワンダーアート
対象	市民活動・ボランティアに興味のある方、社会のために何か始めたい方
参加者	10 人(定員 10 名)
内容	入院している子どもたちへ贈るクリスマスカードの作成や封入作業などのボランティア体験。

③仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)

日時	令和6年 10 月 12 日(土)14:00~16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター4 階研修室 5
受入団体	仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)
対象	国際協力に興味がある方、市民活動・ボランティアに興味のある方
参加者	23 人(定員 10 名)
内容	海外の医療保健協力に役立てるための、使用済み切手の整理作業のボランティア体験。

④深沼ビーチクリーン

日時	令和6年 11 月 10 日(日)10:20~11:30
会場	海岸公園センターハウス集合
受入団体	深沼ビーチクリーン
対象	自然が好き・体を動かすのが好きという方、ボランティアに興味のある方など
参加者	10 人(定員 10 名)
内容	深沼海水浴場周辺の海岸清掃のボランティア体験。

⑤仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)

日時	令和 7 年 2 月 15 日(土)14:00~16:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター3 階研修室 1・研修室 2
受入団体	仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)
対象	国際協力に興味がある方、市民活動・ボランティアに興味のある方
参加者	20 人(定員 20 名)
内容	海外の医療保健協力に役立てるための、使用済み切手の整理作業のボランティア体験。

(2) いづいっちゃんねる上映会

サポートセンターがこれまで配信してきた動画コンテンツ「いづいっちゃんねる」を活用し、動画視聴を通じて社会課題や自分に何ができるかを考え、活動のはじめの一步を後押しする場として、いづいっちゃんねるの上映会を2回実施した。

① いづいっちゃんねる上映会「皆で考える。『普通』って何だろう？」

日時	令和6年9月12日(木)17:30~19:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター4階研修室5
視聴回	第12回配信「『普通』って何だろう？アートの現場から」
対象	社会のために何か始めたい人など
参加者	4人(定員10名)
内容	生きづらさや困難を抱える人の心を、アートの知から絵サポートする現場についての動画を見たり、感想を話し合ったりした。

② いづいっちゃんねる上映会「皆で話そう。『心地よいつながり』のこと」

日時	令和7年1月14日(火)17:30~19:00
会場	仙台市市民活動サポートセンター4階研修室5
視聴回	第15回配信「ゆる〜いコミュニティづくりの現場から」
対象	社会のために何か始めたい人など
参加者	4人(定員10名)
内容	地域に根差した居心地の良いコミュニティをつくる活動についての動画を見たり、感想を話し合ったりした。

(3) いづいっちゃんねる あつまれマチノワ編

全館イベント「マチノワPOP!UP!キョンです その出会い」開催に合わせ、イベント参加団体をゲストに、活動概要や課題意識、視聴者がこれからできることなどをインタビューする配信をした。また、これまでの視聴者の感想やアクションを事前に収集し、ゲスト入れ替わりの時間に取り上げた。

配信日時	インタビュアー:前川雅尚さん (TOHOKU360 通信員)	視聴 件数	再生 回数	高 評価
	ゲスト			
令和6年 6月30日(日) 11:30~12:30 (Part1)	幸せの町 35 鈴木智尋さん ひまわりスマイルプロジェクト 鈴木ゆう子さん 一般社団法人三陸&東海防災フォーラム伝 千葉久美子さん	3	120	1
令和6年 6月30日(日) 14:00~15:00 (Part2)	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)東北支部 古川和子さん NPO 法人ペット終活サポートネット宮城 齋藤まり子さん 海辺のたからもの 種市希美さん	9	167	2
合計		12	287	3

※再生回数、高評価は、令和7年3月31日時点の数値

2. 活動力強化講座

(1) ナゼなに協働

協働を検討している NPO 法人等を対象に、協働のノウハウを伝える講座を 2 回実施した。また、講座参加団体に対して協働に関する伴走相談を行った。

日時	①令和 6 年 5 月 31 日(金)18:00~19:30 ②令和 6 年 10 月 26 日(土)14:00~15:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター4 階研修室 5
対象	行政や他の組織との協働で課題を解決したいと考えている NPO 法人 協働に興味のある行政職員や中間支援団体スタッフ、等
参加者	①9 人(5 団体) ②1 人(1 団体) (定員:15 団体 30 人)
内容	協働についての基本的な考え方の説明(サポセンスタッフから) 仙台市の協働に関する各制度の説明(仙台市市民協働推進課の方から)

(2) 資金調達講座

NPO の資金調達の考え方を説明し、資金のうちの一つである助成金について基本から学べる講座を 2 回実施した。

日時	①令和 6 年 8 月 31 日(土)10:00~11:30 ②令和 7 年 1 月 31 日(金)18:00~19:30
会場	①仙台市市民活動サポートセンター4 階研修室 5 ②仙台市市民活動サポートセンター6 階セミナーホール
対象	市民活動を立ち上げ予定の方、新たに助成金申請を検討している方、助成金の獲得に苦労している団体、資金調達があまりうまくいっていない団体、新規設立団体・NPO法人など。
参加者	①10 人 ②8 人 (定員 15 名)
内容	NPO の活動資金について、助成金とは何か、申請書を書くポイントなど

3. 事業参加者フォローアップ

随時、電話、ZOOM、メール等で、事業参加者・相談者等を対象に、事業実施後・相談後のフォローアップ(状況確認)を行い、事業参加前後・相談後にどのような変化が起きたのか、どのような支援を必要としているのかを把握し、次の行動を促すために、必要な支援メニューを提案・提供した。

4.若者の人材育成に資する事業への協力

(1)仙台まちづくり若者ラボ 2024

仙台市による、若者自らが「自分ごと」として関われる、まちづくりに関するテーマを設定してワークショップとフィールドワークによる実践的なプログラム。サポートセンターはワークショップ会場およびグループ活動の会場提供を行った。令和5年度からは各チームのメンターのミーティングにサポートセンタースタッフも参加。今年度もアクションを進めていく上で参考となる情報を提供した。また、ワークショップの各回に参加し、各チームのメンバーに対して活動を進めるうえでの助言や相談対応をした。他、2チームのアクションを取材し、情報発信に協力した。

日程	内容
令和6年 5月1日(水)	今年度の若者ラボの運営協力について、担当者と打ち合わせ
8月9日(金)	ワークショップ会場提供
9月3日(火)	メンターとのオンラインミーティングに参加、情報提供
9月20日(金)	中間報告会での各チームの発表にフィードバック
10月21日(月)	メンターとのミーティングに参加、情報提供
11月9日(土)	スポーツチームのアクションを取材
11月11日(月)	食チームのアクションを取材
12月2日(月)	アクション報告会会場提供 各チームメンバーに相談対応
令和7年 1月18日(金)	最終ワークショップ会場提供 各チームメンバーに相談対応
1月24日(金)	若者ラボ参加者に相談対応

(2)仙台若者 SDGs アワード

仙台若者 SDGs アワード実行委員会は、若者や市民が活動を知るきっかけとなり、より若者が活躍できる仙台をつくり、持続可能な社会の実現を推進するための取り組みを主催している。サポートセンターは、応募者を募るための広報協力、本番会場および応募団体の交流会の会場提供での実施協力を行った。

日程	内容
令和6年10月31日(木)	応募団体交流会
11月16日(土)	最終審査プレゼンテーション

(3)社会教育士実習受け入れ

仙台白百合女子大学、東北大学より申し出を受け、学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりに中核的な役割をはたす専門人材である社会教育士の取得を目指す大学生を、実習先として受け入れ、サポートセンターにて、以下のプログラムを行った。

日程	参加者	内容
令和6年 9月12日(木)	仙台白百合女子大学 (2人)	・サポセン施設説明 ・「コトハジメ塾」&館内ガイド ・「いづいっちゃんねる上映会」参加
9月13日(金)	仙台白百合女子大学 (2人)	・市民活動取材事前説明 ・地域メディア談話室参加
9月14日(土)	仙台白百合女子大学 (2人)	・ローカルメディアコンパス体験
9月18日(水)	仙台白百合女子大学 (2人)	・「ちょっと。ボランティア」参加 (受入先:NPO法人ワンダーアート)
9月22日(日) 9月27日(金)	仙台白百合女子大学 (2人)	・お出かけ企画実施 (市民活動団体を訪問し取材)
10月5日(土)	仙台白百合女子大学 (2人)	・市民活動取材記事校正作業 ・実習全体の振り返り

日程	参加者	内容
令和7年 1月14日(火)	東北大学(2人)	・サポセン施設説明 ・「コトハジメ塾」&館内ガイド ・「いづいっちゃんねる上映会」参加
1月16日(木)	東北大学(2人)	・ソーシャルハブコラボセッション「くらしともしもの研究所」参加
1月18日(土)	東北大学(2人)	・スロコミコーヒー焙煎部 体験 ・実習全体の振り返り

(4)ユースチャレンジ! コラボプロジェクト(若者版・市民協働事業提案制度)

日程	内容
令和6年5月27日(月) 5月29日(水)	令和6年度 ユースチャレンジ!コラボプロジェクト審査会
令和7年2月28日(金)	令和7年度募集説明会
3月18日(火)	令和6年度事業報告会

添付

■広報物 ■配布資料 ■アンケート結果 □その他()

個別事業報告書

【事業 4】協働に関する理解促進及び機会創出事業	
事業目的	1.多様なまちづくりの主体が協働への理解を深める機会をつくる。 2.市民活動団体が協働の担い手になるために必要な理解を得る機会をつくる。 3.地域や社会の課題の解決に関心のある人たちが集い、交流できる場をつくる。 4.市民目線で発掘された社会課題に対し、多様な主体が関わり課題解決のために力を発揮する環境をつくる。
成果目標	協働についての理解促進が市民レベルで着実に広まり、地域や社会の様々な課題の解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくる。
実施目標	協働の理解促進や創出に資する事業を、毎年度2事業以上実施 事業者と他の主体の意見交換する事業を毎年度実施 年間の延べ参加者数 100 人以上
成果	1. 多様なまちづくりの主体を対象とした、協働に関する理解を深めるための事業 (1)協働の現場トーク！ ・「センサリールーム」の設置し・普及について協働で取り組む事例を 1 件紹介。協働そのものではなく、センサリールームや合理的配慮に関心のある人たちの参加が目立ち、これまでサポートセンターを利用していない人にも、協働による課題解決の事例を知ってもらう機会になった。 ・アンケートでは「自分達だけではできない事も他団体との協働なら実現できる」という感想もあり、協働への理解促進につながった。 2. 多様なまちづくりの主体が活動分野を超えて連携・交流し、協働の機会を創出するための事業 (1)せんだい・みやぎソーシャルハブ(セッション) ・誰もが当事者になりうる「防災と自治」をテーマに設定し、全8回のセッションを開催。参加者数は、のべ207人。そのうち初めて参加した人は、68人で、課題解決に取り組む主体と新たに出会うことができた。 ・セッションの後、参加者の中には、ゲストの活動に参加する人、プロボノを始める人など、複数のアクションが生まれた。 ・県外からゲストを招き情報提供を仰いだこと、それに伴い参加者も全国から集まったことで、社会課題解決のためのネットワーク拡大を図ることができた。 ・令和5年度、参加者同士で課題を持ち寄り解決に向けた意見交換をする機会が少なかったという課題を受け、セッション参加者等に話題提供を求めたところ、商店会運営者との連携企画(コラボセッション)が実現した。 ・地域や社会の課題解決に多様な主体が様々な形で関わり、しなやかに対応していく環境をつくるには、特定のエリアやテーマで「セッション」のような場を開いている、地域の核となる団体や人物との連携が必要である。今年度は、それらの主体と連携企画(コラボセッション)を3件実施することができた。 ・セッション初参加者 68 人のうち、28人がコラボセッションの参加者だった。コラボセッションは、サポートセンターと連携先の顧客層とが出合う機会となり、新たな交流を生むことにもつながった。

	(2)マチノワ POP! UP! キュンです その出会い 全企画を通じてのべ 579 人の参加があった。初めてサポートセンターを訪れた人もいた。事業 1 から事業 5 までの企画を盛り込んだことで、市民活動無関心者層から活動運営者層まで幅広い層の市民が集った。また、地域や社会の課題の解決に関心のある人たちと交流する場をつくることができた。 ①マチノワがっこう 市民活動団体にとって、普段はアプローチできない層との新たな出会いのきっかけを作り、市民に直接活動を伝えられる機会にできた。出展団体同士もお互いの企画に参加し、団体同士がつながるきっかけにもなった。 ②つながる音楽室 MUSIC HUB PROJECT は、サポートセンターが令和 5 年度より伴走支援してきた団体。「OtuHub」という市民メディアの活性化を目指す活動をきっかけに、文化芸術の分野における情報発信や連携の課題解決に取り組むプラットフォームへと発展した。本企画はサポートセンターと共催という形で、多様な市民が音楽を通して交流する場を作ることができた。MUSIC HUB PROJECT にとっても、新たな市民活動団とのネットワーク促進につながった。																
課題	・協働の理解促進という点で、今回「協働の現場トーク！」で扱ったテーマは「市民協働」ではなかったため、行政との協働に関心のある人たちへのフォローにはつながらなかった。 ・仙台のまちには、多様な主体が情報交換し地域の課題解決策を探るセッションのような場や、共創プラットフォームのような取り組みが数多く存在することがわかってきたが、まだ把握しきれていない。それらのすでにある場や取り組みを発掘・把握し、関係性を構築することが課題。																
実施概要	1.協働事例の発掘・理解促進 (1)協働の現場トーク！ 誰にでもスポーツ観戦を楽しむ機会を提供しようと、観戦会場に協働で「センサリールーム」を設置し、普及にも取り組む 2 団体から、協働の相手との関係づくり、協働で事業を行ううえでの心構え、課題など実践者ならではの話を聞くことができる機会をつくった。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2">協働の現場トーク！～スポーツ観戦を楽しむ機会を誰にでも！～</th></tr> <tr> <td>実施日時</td><td>令和 6 年 6 月 30 日(日)13:30～15:00</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>仙台市市民活動サポートセンター 研修室5</td></tr> <tr> <td>ゲスト</td><td>プラスクロス 代表 山田毅さん 市民スポーツボランティア SV2004 泉田和雄さん</td></tr> <tr> <td>対象</td><td>協働で社会課題を解決したいと考えている NPO 法人、企業、教育機関など様々な組織。多様な主体が連携したまちづくりに興味がある団体や人。協働に興味のある行政職員、中間支援職員。</td></tr> <tr> <td>参加者</td><td>15 人(定員 30 人)</td></tr> <tr> <td>参加費</td><td>無料</td></tr> <tr> <td>内容</td><td>協働によって地域の課題解決や魅力向上に取り組むゲストを迎え、協働の相手との関係性、心構えなど、実践者ならではのお話を聞くトークセッション。今回は「センサリールーム」の設置に取り組む、個人事業主と市民活動団体の事例を紹介。</td></tr> </table>	協働の現場トーク！～スポーツ観戦を楽しむ機会を誰にでも！～		実施日時	令和 6 年 6 月 30 日(日)13:30～15:00	会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室5	ゲスト	プラスクロス 代表 山田毅さん 市民スポーツボランティア SV2004 泉田和雄さん	対象	協働で社会課題を解決したいと考えている NPO 法人、企業、教育機関など様々な組織。多様な主体が連携したまちづくりに興味がある団体や人。協働に興味のある行政職員、中間支援職員。	参加者	15 人(定員 30 人)	参加費	無料	内容	協働によって地域の課題解決や魅力向上に取り組むゲストを迎え、協働の相手との関係性、心構えなど、実践者ならではのお話を聞くトークセッション。今回は「センサリールーム」の設置に取り組む、個人事業主と市民活動団体の事例を紹介。
協働の現場トーク！～スポーツ観戦を楽しむ機会を誰にでも！～																	
実施日時	令和 6 年 6 月 30 日(日)13:30～15:00																
会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室5																
ゲスト	プラスクロス 代表 山田毅さん 市民スポーツボランティア SV2004 泉田和雄さん																
対象	協働で社会課題を解決したいと考えている NPO 法人、企業、教育機関など様々な組織。多様な主体が連携したまちづくりに興味がある団体や人。協働に興味のある行政職員、中間支援職員。																
参加者	15 人(定員 30 人)																
参加費	無料																
内容	協働によって地域の課題解決や魅力向上に取り組むゲストを迎え、協働の相手との関係性、心構えなど、実践者ならではのお話を聞くトークセッション。今回は「センサリールーム」の設置に取り組む、個人事業主と市民活動団体の事例を紹介。																

2.社会課題解決のプラットフォーム

(1)せんだい・みやぎソーシャルハブ(セッション)

【実施内容(共通)】

対 象:社会課題の解決に関心のある NPO、企業、教育機関、行政や市民

参加費:なし(コラボセッションをのぞく)

内 容:市民目線で発掘された社会課題に対し、設定したテーマをもとに多様な主体が参加する情報交換会「防災と自治」をテーマに開催した。また、参加者から持ち込まれたテーマで、セッションを共催した。

防災と自治 相互扶助の起点づくりから考える	
実施日時	令和 6 年 5 月 16 日(木)19:00~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター6 階 セミナーホール オンライン(zoom)
情報提供	社会福祉法人 拓く理事長 馬場 篤子さん、鴨崎 貴泰さん 独身女子防災プロジェクト 北村 育美さん
参加者	26 人(会場 15 人、オンライン 11 人)

防災と自治 あすと長町から新たな地域運営を考える	
実施日時	令和 6 年 8 月 22 日(木)19:00~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター6 階 セミナーホール オンライン(zoom)
情報提供	認定 NPO 法人つながりデザインセンター副代表理事 新井 信幸さん
参加者	33 人(会場 20 人、オンライン 13 人)

防災と自治 人とまちをつなぐ“関わりしろ”を考える	
実施日時	令和 6 年 9 月 19 日(木)19:00~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター6 階 セミナーホール オンライン(zoom)
情報提供	一般社団法人ながまちマチキチ 代表理事 加藤隆さん
参加者	25 人(会場 14 人、オンライン 11 人)

防災と自治 八木山の教訓からもしもいつもの関係づくりを考える	
実施日時	令和 6 年 10 月 17 日(木)19:00~20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター6 階 セミナーホール オンライン(zoom)
情報提供	八木山地域再生・創生ボランティアグループ YARVOG 代表 並河浩一さん 仙台八木山防災連絡会 若者部会 山口茂さん
参加者	23 人(会場 14 人、オンライン 9 人)

	コラボセッション 商店街アレコレ公開作戦会議-学生と商店街のかかわりかたとその可能性	
	実施日時	令和 6 年 11 月 21 日(木)19:00～20:30
	会場	仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール オンライン(zoom)
	共催	八幡町商店街ファンコミュニティ
	ファシリ テーター ／ゲスト	八幡町商店街ファンコミュニティ 星聡さん なかやま商店街振興組合 副理事長 千葉裕貴さん 連坊オモシロ案内人 千葉隆夫さん 荒町商店街振興組合 副理事長 庄子康一さん
	参加者	42 人(会場 26 人、オンライン 16 人)
	参加費	なし
	内容	学生と連携している商店街から、連携事業のきっかけ、裏話、想 いなどを伺い、連携促進のヒントを探った。
	コラボセッション 長町のコミュニティスポット SABORI-BA GISUKE に行ってみよう！	
	実施日時	令和 6 年 12 月 19 日(木)19:00～20:30
	会場	SABORI-BA GISUKE 仙台市市民活動サポートセンター6 階セミナーホール
	共催	一般社団法人ながまちマチキチ
	参加者	19 人(GISUKE 11 人、サポートセンター 8 人)
	参加費	SABORI-BA GISUKE 2,500 円 仙台市市民活動サポートセンター 1,500 円
	内容	一般社団法人ながまちマチキチが運営するコミュニティスペース SABORI-BA GISUKE に訪問する出張セッションを実施した。
	コラボセッション 潜入！くらしともしもの研究所	
	実施日時	令和 7 年 1 月 16 日(木)19:00～20:30
	会場	くらしともしもの研究所(青葉区花壇)
	共催	くらしともしもの研究所
	情報提供	くらしともしもの研究所 研究員 桃生和成さん
	参加者	16 人(定員 10 人)
	参加費	なし
	内容	暖をとる研究体験と情報交換を行った。
	防災と自治 能登半島地震から 1 年-現状を知り、「次」への備えを考える-	
	実施日時	令和 7 年 2 月 20 日(木)19:00～21:00
	会場	仙台市市民活動サポートセンター6 階 セミナーホール オンライン(zoom)
	ゲスト	合同会社 C と H 共同創業者・CEO 伊藤紗恵さん NPO 法人 ESUNE 副代表理事／ 株式会社御城川 能登の人事部コーディネーター斉藤雄大さん
	参加者	23 人(会場 13 人 オンライン 10 人)

参加者内訳

属性 開催日	市民	町内会	企業	大学 (教育機関・ 学生を含む)	NPO	行政	議員	ゲスト	参加者合計
5月16日	3	3	1	1	12	2	0	4	26
8月22日	6	1	2	4	16	2	1	1	33
9月19日	1	1	3	0	17	2	0	1	25
10月17日	4	1	1	1	14	0	0	2	23
11月21日	8	0	3	7	14	6	0	4	42
12月19日	0	2	2	0	12	1	0	2	19
1月16日	3	0	1	3	6	0	0	3	16
2月20日	3	0	2	4	12	1	0	1	23
属性別合計	28	8	15	20	103	14	1	18	延べ参加者合計
									207

3. マチノワ企画 マチノワ POP! UP! キュンです、その出会い

「マチノワ」とは、まちに暮らす多彩な主体の力を活かしあえる、「人」と「人」、「人」と「まち」のゆるやかなつながりを意味する造語。サポートセンターの各事業を 1 日に詰め込み、市民による地域の課題解決に向けた活動事例や、協働事例に触れる機会をつくり、新たな活動が生まれる土壌をつくることを目指した。自分が知らなかった地域の活動や、関心とマッチする取り組みとの突然の出会い、また、分野が異なる市内の市民活動団体同士の出会いを仕掛け、連携につながる場をつくった。

①マチノワがっこう

地域の課題解決に向けて多様な主体の連携を生み出すことを目的として、これまでサポートセンターが支援してきた、さまざまな市民活動団体の発表の場をつくった。また、販売・展示・体験を通して、マチノワの来場者が市民活動に触れる場をつくり、活動への「はじめての一步」を支援した。

実施日時	令和 6 年 6 月 30 日(日)10:00~13:00、14:00~17:00
会場	体験部: 仙台市市民活動サポートセンター4 階 研修室3~5 購買部・展示部: 仙台市市民活動サポートセンター1 階 マチノワひろば
対象	マチノワ POP! UP! の各企画参加者、一般市民など
参加者	出展 14 団体 来場者のべ 462 人(定員なし)
参加費	無料
内容	◎体験部(午前・午後の 2 部制) 体験型ワークショップやボランティア体験の企画を公募。団体にとっての発表の場と無関心層がボランティアや市民活動に触れるきっかけをつくった。 【出展団体】 幸せの町 35、公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会東北支部、東北大学公共空間ポッチャプロジェクト D&I(DIBO)、仙台手をつなぐ文庫の会、海辺のたからもの、NPO 法人 楽知ん研究所 ◎購買部(午前・午後の 2 部制) 市民が買うという手軽な方法で市民活動に関わり活動を知ることができるきっかけをつくった。 【出展団体】 NPO 法人麦の会、ひまわりスマイルプロジェクト、NPO 法人 アマニ・ヤ・アフリカ、NPO 法人 ペット終活サポートネット宮城、仙台 JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)、エフブンノイチ ◎展示部(終日) 自分たちの活動を何らかの形で発表したい市民活動団体にマチノワひろばのスペースを使って発表の場を提供した。 【出展団体】 一般社団法人 ReRoots、一般社団法人 三陸&東海防災フォーラム伝、公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会東北支部

	②つながる音楽室(再掲)	
	MUSIC HUB PROJECT と共催で約 1 年間の成果発表の場として、ジャンル、活動形態の垣根を越え、音楽に関わる人同士がゆるやかにつながる場をつくった。	
	日時	令和 6 年 6 月 30 日(日) 10:00~17:00
	会場	仙台市市民活動サポートセンター 地下1階 市民活動シアター
	ゲスト	・仙台フィルハーモニークラブ 会長 長島榮一さん ・公益社団法人定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会 代表理事 武藤政寿さん ・とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI 実行委員長 田村 真衣(欠席)
	対象	音楽に関わっている人や、音楽に関心のある一般市民など
	定員	なし
	参加者	55 名
	参加費	なし
	内容	・OtoHub 説明会 & 交流会 音楽情報発信サイト「OtoHub(オトハブ)」の概要説明・意見交換 会意見交換会テーマ「不要不急の音楽の明日～音楽っていらなの?～」 ・音楽体験バザール ピアノやドラム、コントラバスや民俗楽器など様々な楽器を体験できる音楽体験ワークショップ ・パネルディスカッション 音楽に関わる多様なゲストとともに行う意見交換 テーマ「音楽のエコシステム～仙台の音楽って誰のもの?～」
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他()	

個別事業報告書

【事業 5】調査研究事業	
事業目的	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
成果目標	仙台の市民社会のあり方とあり方を支える仕組み(施策)を検討・試行し、協働によるまちづくり・地域づくりを推進する。
実施目標	プラットフォーム運用体制の確立。 社会課題を市民の手で調査分析・可視化するソーシャルラボ機能の実装。
成果	(1)多様な主体の参加による協働体制の確立 ＜社会課題解決のプラットフォームの運用＞ ・せんだい・みやぎソーシャルハブで資金調達をし、事務局にコーディネーターを 2 人配置して 2 年目。スキルアップのための研修や実践を重ね、人材を育成することができた。 ・サポートセンタースタッフと、コーディネーターが常に情報交換や資源の共有をし、ヒアリングやアウトリーチにともに出かけることで、相互のスキルアップにつながった。その結果、プラットフォームに巻き込む主体も広がった。 ・セッション(情報交換会)、プロボノコーディネート、情報発信とアーカイブ、ラボ活動を通じて、仙台の市民社会のあり方と、あり方を支えるプラットフォームと運用体制をつくることができた。 ＜必要な機能の洗い出しと共有＞ ・地域の課題解決を促進させるコーディネーターという役割を担っている市民の発掘と関係性づくりに着手することができた。 ・また、多様な主体が集まり地域の課題解決につなげる情報交換の場について情報収集することができた。 ・本事業において連携している、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター、一般社団法人パーソナルサポートセンター、NPO 法人都市デザインワークスの 3 者で、事業 10 年を振り返り、仙台市における今後の市民活動支援の方向性が見えた。今後のサポートセンターに必要な機能や役割を NPO、行政、市民ととらえ直す機会となり、実際にサポートセンターの次期事業計画につながった。 ＜企業ヒアリング＞ ・社会貢献活動は、今や企業の経営戦略の一部であることから、今年度は、社会貢献活動に関心のある企業が互いに情報交換したり、連携を生み出したりするための場に積極的に参加しネットワーク拡大を図ることができた。 ・特に、「地域創生第 16 回ビジネス商談会」で出会った企業のうち 2 社にヒアリングをすることができ、顔の見える関係をつくることができた。また、他 2 社がセッションに参加した。

	(2)ソーシャルラボ機能の実装 ・地域防災を考えるうえで、地縁コミュニティの課題と今後の新しい地域運営をテーマにしたセッションを開催した。その後、ゲストを含めた参加者有志によるラボ(勉強会)開催につながった。 ・町内会、マンション自治に力を入れる人、町内会に興味のない若者、新たな地域運営を実践しようとする人などが集まり、地縁によらない選択できるコミュニティについて議論を深めることができた。 ・都市デザインワークス主導で企画した奥川氏によるトークイベントは、セッションとは違う雰囲気企画し、日ごろサポートセンターを利用していなかったり、セッションに参加したことがなかったりする人の参加があった。新たな出会いを得ることができた。 (3)調査研究事業報告会 これまでの調査研究事業で得られた知見を市民に還元するため、報告会を実施した。 ・外部的にも内部的にも、事業への理解が深まる機会となった。 ・感想として、「仙台や他の都市の NPO を取り巻く環境がわかった。今後も何かしら参加したい」、「調査研究事業の具体的なプロセスと提案内容やコーディネーターがハブ的存在である等、これまで詳しくなかった情報を知ることができた」などの声があった。
課題	プラットフォームの設置・運用により、多様な主体が集まり地域の課題解決につなげる情報交換の場やコーディネーターにコンタクトすることができたが、まだ関係性構築までは至っていない。
実施概要	1.多様な主体の参加による協働体制の確立 (1)社会課題解決のプラットフォームの運用 ①ソーシャルラボ事務局とのミーティング 令和 6 年 4月 5 日(金)、4 月 9 日(火)、4 月 12 日(金)、4 月 19 日(金)、4 月 26 日(金)、4 月 29 日(月) 5 月 2 日(木)、5 月 10 日(金)、5 月 16 日(木)、5 月 24 日(金) 6 月 4 日(火)、6 月 14 日(金)、6 月 28 日(金)、 7 月 5 日(金)、7 月 19 日(金)、7 月 26 日(金) 8 月 2 日(金)、8 月 9 日(金)、8 月 16 日(金)、8 月 22 日(木)、8 月 30 日(金) 9 月 5 日(木)、9 月 20 日(金)、9 月 27 日(金) 11 月 1 日(金)、11 月 8 日(金)、11 月 15 日(金)、11 月 22 日(金)、11 月 29 日(金) 12 月 6 日(金)、12 月 20 日(金)、12 月 27 日(金) 令和 7 年 1 月 10 日(金)、1 月 17 日(金)、1 月 24 日(金)、1 月 31 日(金) 2 月 7 日(金)、2 月 14 日(金)、2 月 21 日(金)、2 月 25 日(火)

②調査研究事業ミーティング

令和 6 年

5 月 10 日(金)、5 月 17 日(金)

6 月 4 日(火)、6 月 6 日(木)、6 月 28 日(金)

7 月 5 日(金)、7 月 26 日(金)

8 月 9 日(金)、8 月 16 日(金)、8 月 30 日(金)

9 月 6 日(金)、9 月 20 日(金)、9 月 27 日(金)

10 月 4 日(金)、10 月 11 日(金)、10 月 18 日(金)、10 月 25 日(金)

11 月 22 日(金)

令和 7 年

1 月 31 日(金)

2 月 7 日(金)、2 月 21 日(金)

(2)必要な機能の洗い出しと共有

調査研究事業ミーティングで洗い出しを行い、調査研究事業報告会で広く一般に共有した。

(3)企業ヒアリング

社会貢献やまちづくり、プロボノに関心のある企業や企業に勤務する社員に対し、ヒアリングを行い、ソーシャルハブ情報交換会への参加を促した。また、課題解決を促進するための連携主体として、企業とのつながり増やすと共に、関係性構築に努めた。

①ミーティング

・4 月 11 日(木)

②ヒアリング

・4 月 18 日(木) シバティンテック株式会社

・7 月 18 日(木) 株式会社プラウドキャリア

・8 月 2 日(金) 佐川急便株式会社

③イベント

・6 月 19 日(水) 第一生命保険株式会社主催
地域創生第 16 回ビジネス商談会 ブース出展

・11 月 5 日(火)雑談会議主催

「ゼブラマインド企業の成功／失敗 -企業利益と社会貢献の両立を目指す雑談会議2期目のリアル決算報告」 参加

2. ソーシャルラボ機能の実装

トークセッション 「多様化する時代に、地域はどう変わる？～今の時代に沿う地域自治・地縁コミュニティを考える～」	
実施日時	令和 6 年 9 月 5 日(木)18:00～19:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター
ゲスト	HITOTOWA INC. 執行役員/防災士/ 神戸市地域活動推進委員会委員 奥河 洋介さん
対象	転勤者、その配偶者、転勤者の支援者、地域防災に取り組む団体、転勤者が多い町内会。テーマに関心のある市民、社会課題の解決に取り組む多様な主体
参加者	35 人(定員 30 人)
参加費	無料
内容	ゲストが関わった団地でのエリアマネジメントのプロジェクトなど事例を紹介してもらいながら、地域自治のあり方や地域のつながりを支える仕組みについて学んだ。
主催等	主催:せんだい・みやぎソーシャルハブ 企画:NPO 法人都市デザインワークス 共催:仙台市市民活動サポートセンター

これからの地域運営を考える勉強会	
実施日時	令和 6 年 10 月 29 日(火)19:00～20:30
会場	仙台市市民活動サポートセンター 研修室 5
情報提供	認定 NPO 法人つながりデザインセンター 副代表 新井信幸さん NPO 法人都市デザインワークス 事務局長 田川浩司さん
対象	8 月 22 日開催のソーシャルハブ参加者、関係者
参加者	15 人(定員なし)
参加費	無料
内容	8 月 22 日開催の「防災と自治 自治会活動は無理ゲー？あすと長町から新たな地域運営を考える」参加者からの「コミュニティの形成と防災についてもっと話したい」との声を受け、ディスカッションや情報交換により、参加者同士が新たな視点や情報を得て、自分たちの活動に活かす有志の勉強会。
後援	日本マンション学会東北支部

その他

- ・7月8日(月) 町内会・地域自治の実践者ヒアリング
- ・12月15日(日)「あすと長町第二市営住宅アンケート調査報告会」参加

	3. 調査研究事業報告会	
	実施日時	令和 6 年 6 月 30 日(日)10:00~12:00
	会場	仙台市市民活動サポートセンター 6 階 セミナーホール
	ゲスト	大阪公立大学 准教授 菅野拓さん
	情報提供者	NPO 法人都市デザインワークス 事務局長 田川浩司さん NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター 代表理事 渡邊一馬さん 仙台市市民活動サポートセンター センター長 太田貴
	対象	NPO、企業、行政、研究機関など社会課題の解決に取り組む多様な主体
	参加者	26 人(定員 30 人)
	参加費	無料
	内容	2015 年から実施している調査研究事業について、調査委内容の報告と共創プラットフォーム「せんだい・みやぎソーシャルハブ」の試行結果、およびこれからの仙台の市民社会像や市民社会を推進する上で必要な機能について広く市民に報告し、意見交換をした。
添付	☒ 広報物 ☐ 配布資料 ☐ アンケート結果 ☐ その他()	